薩藩名勝志

十七 十八 十九 諸縣郡

十

和書門

類	號	函	架	冊
和書門	三六五七二	二一二	八	一〇

内閣文庫

類	號	冊	函	架
和書	三六五七二	一〇	一七六	一一三

内閣文庫

番號	和	36572
冊數	10	(10)
函號	176	117

地 六九

国立公文書館 National Archives of Japan

閣 99

薩藩名勝志巻之十七 諸縣郡

日本政府圖書

薩藩名勝志巻之十七目録

諸縣郡

妻万神社
心慶寺
新熊野権現
若宮神社
運慶墓
永泰寺
山假屋
海徳寺
多門院
照倍院
山口神社
寶満寺
中之宮神社
大性院
志布志屋鋪
有明浦

権現島
内城
大慈寺
千年松
山宮神社 古鏡鹿角圖
船磯
濱宮神社
鎮母神社
蓮華院
都城舊趾
松尾城跡
腰掛石
即心院
御在所嶽
平瀬
檳榔島 檳榔樹
一宮神社
正若宮八幡
蒼龍菴
兼喜神社
天長寺
興金寺
神柱宮
光明寺
西生寺
黒尾権現
菖蒲原
正應寺
祝吉御所跡
關尾瀧
龍峯寺
延命寺
龍泉寺
十念寺
天ヶ峯
二嚴寺
新磯権現
稲荷神社
和光寺
明観寺 不動堂

国立公文書館
National Archives of Japan

荒嶽權現　　走湯權現 修善寺
山之口古城　　十輪寺
的野八幡 祭式圖　　諏方神社
長久寺　　梁新寺

日向國

日向ハもと大國にして薩摩大隅もこれより分かれたりいにしへ景行帝日に向ひし國とて日向國と名付給ひしといふ其時まてハ今のことくに國境も定まらん國号とてもなかりしと見へ侍れとも皇孫瓊瓊杵命初めて天降し給ふ時天神の御子ハ筑紫日向高千穂槵觸之峯に天降り給ふへしと猿田彦大神のいひしと見えハ日向の名ハとくよりありて日向國といふ國号ハなかりけるを景行帝の時より初めて國号といふなりけれハ是より國境を定め郡邑を

分ち世を經て今のごとくにはなれり一國凡五郡臼
杵兒湯那珂宮崎諸縣諸縣郡周廻九拾五里七町十間半正保中究るところ周廻九拾
里

諸縣郡

大崎

妻万五社大明神　假宿村に社座地頭假屋假屋同村にありを距
ること辰方七町余祭神二座大足皇女立速主命例祭正月中の申
酉日九月中の申酉日本邑の總鎮守にして一宮といふ
秋の祭にも濱殿下りあり神輿をいだして神幸の式をな
し又鏑流馬を張りを勸請の年暦詳かならず三代實録

天安二年冬十月二十二日己酉授日向國從五位上都萬
神從四位下云々建久八年日向国圖田帳諸縣郡妻万宮
領九十八丁云々邦君大岳公の时坊津一乘院住僧頼政
法印の筆記に守護社参の次才薩摩惣廟併聞大隅惣廟
止上大權現日向惣廟五社大明神号妻宮云々とある世
りされは往古はつまの宮といひけるを今の里俗文字
に隨ひ誤りてさいまんと呼なり肝付氏當邑を領しゝ
かは崇敬ありしと見へて天文廿二年癸丑三月の棟札
に納む再興と見へたり由緒記を按るに妻万の神社
ハ日向州五郡臼杵兒湯那珂宮崎諸縣郡ごとに一社ありて五郡に

五社なりしかハ會祭して五社大明神と稱せしといへり
妻万の神社古ハ今の志布志郷原田村にありしをの年
次まゝさしに遷座なりし詳ならすしかくし原田村ニ旧
社地あり今に社殿の左脇に五林大明神社祭神詳ならす山
本宮と呼ふ
王社あり南に右脇に稲荷社及ひ伊勢大神宮小祠石のあり
鳥居の左に本地堂あり十一面観世音の木像を安置せ
往古別當ありて本地堂建
立しかとも今詳ならす社司の家ハ鳥居の前右側
にあり篠原某といふ
如意山寶棒寺多聞院 假宿村にあり地頭假屋より寅方
四拾七間余眞言宗大乗院の末寺にして本尊毘沙門天開
山權大僧都頼恵 慶長九年二月示寂 開基年歴詳ならす本邑の

祈願寺といふ
大崎山心慶寺 假宿村にあり地頭仮屋の辰方六町余曹
洞宗福山大安寺の末寺なり本尊釈迦如来開山亀慶抱
大和尚 正保元年甲申十一月廿一日示寂 開基年月詳ならす往古肝付
越前守兼久の草創なりといひ傳ふ今當邑の菩提寺と
なす境内に鎮守堂あり飯綱權現多賀大明神稲荷大明
神を祭れりといふ
飯隈山飯福寺照倍院 飯隈村 飯隈村俗に神領村と呼ふ益丸村の枝村なり
あり地頭假屋を距ること寅卯方弐拾三町余開山覺進
上人 永仁元年癸巳正月廿三日入寂 本尊神変大菩薩木像長さ尺四寸余運慶作 不動

明王木像長さ三尺一寸余作者詳かならす 當寺ハ本山派山伏の住職天台
宗皇都聖護院の末寺二十八大先達の一にして薩隅日
三州の年行司職を兼ね初め邦君道義公の時弘安三年
庚辰十一月建立なり僧覚進をして開山住僧持たしむ山中
に新熊野権現の社あり社頭に一天護持四字の額を掲
く中山深元懇書とるところ 當寺の住僧に命して別當職を掌ら
しめ開基より以来世々院家勅願所として寶祚の延長
国家の寧靖を祝符を禁闕に献しけるに中ころまゝ廃
きさりしを大玄公の時聖護院宮道尊親王に稟し古に
復せむことを請ひしに優詔ありて初めて此ごとく勅

願所となし符を献せしむるのこと容さる今に至りて
としごとに大峯に入法を修し符を鳳闕に献すとなん
由緒記を按するに人皇四十二代文武帝慶雲五年僧義
覚一寺を開基して他にありしを後何れの年月に
か今の地に移せる詳かならず四十五代聖武帝天平十
五年勅願の所となし大先達の職として歳ごとに入峯
修行と参内して御札を献しけるにいつしかゝる事とも
皆廃されたりしに慶長十三年慈眼公の請によりて再ひ先
達職のことを許され又元禄十四年大玄公の請ありて
いにしへのごとく勅願所となし咒符を献し参内せしむる
ことを申されし今にそのことたりしを武藪村花の言を
聞くに飯福寺といふしへハ布志にのうちにありて後
にこの地に移せりと云伝ふ今志布志にて蓬原の地に魁
野権現社あり是旧社地にして飯福寺のありし跡も今
に存せり
といへり境内に眺望の十三景ありみな絶勝なり一景
ごとに東園参議左中将基辰卿の詠歌あり図に載す

京こと〲く飯隈山境内にあるはあらゆる風光の眺望
に便りなれハ他にはあるまじのもこれといふ
山王社熊野権現本社の左の方になり愛宕社山王社の左になり山口大明神社
本社の右にあり天満宮山口神社の右にあり稲荷社天満宮の右にあり本地堂な社
のお左にあり阿弥陀如来を安置す虚空蔵堂の方なり社のお右其余山中末社諸
堂ありさしに省く又二十六の坊舎中之坊梅谷坊桐樹坊榎木坊池之
坊門也坊禅盛坊松尾坊杉谷坊櫻井坊十室坊文殊坊梅
本坊原之坊山本坊養傳坊勝谷坊甚鏡坊永学坊圓長坊
来仙坊宝元坊文昌坊
文亮坊松谷坊井上坊なり常に照信院に属しち勢を助
ある朝夕の霧行息さられ境地廣大にして一山秀を鍾め
寂莫たる神廟苔砌緑深くゆことに清浄の修験の場ふ
也

飯熊山十二景

茅屋夜雨

あれまさるぬれしも雨も茅屋戸の軒にさ
くみのまくしけ

神前孤燈

神さひし志けき森の木の間よりもれくる
てらすともし火の影

隣寺暁鐘

此さとはいとゝ人の袖ぬらさらん明け鐘ちる絶
ゝ川きれゆる

板橋秋月

宵のまにきえふ雲もさらんけさ月ら
はしむ路のつるえし

社山秋雪

高紀多川るそのりし山に降りそへてふむ出の
ねさしゆふ白ゆき

二浦帰帆

さ義はれて海つ夕や二浦は波にかゝる海
士の釣舟

長汐網引

うつ人のつきも波のはついかにいそかし
くもあひきすなり

閼伽井蛙

聲そふるかはつは法のは撫きに清きね
ね底にしみてきこゆ

田中松嵐

時に生る山田の松の枝ふれてそよくはつし
の音も志けき

下村晩霞

いさも霞も風に霞りてむらさき遠

ささるの夕ゑる

丞田白鷺

をく霧にまよふもりにおもひてさらの行田
に拾ふ白さき

檳榔秋月

と詠こしにあそふなる秋に野分さとの
かゝる流きやへたそぬ

横濱浪音

梅さそふよこ西の濱の夕風にきゝそへてお
沖津志ら浪

志布志　初め救仁院高濱と云三十九代天智帝潜幸し　かしこにおはしまして志布志と名付給ひし
といふなりその志布志　郷の下に記すを

正一位山口神社　安樂村に鎮座地頭仮屋を距ること申
酉方貳拾八町余祭神六座　天智天皇倭姫玉依姫大友親王　持統天皇乙姫　例祭二度正月
中午日九月中午日　當社ハ初め大友親王の霊を祭り山口大明神
といふ大同二年丁亥八月六社　山宮神社鎮母神社若宮　神社中之宮横榔御前五　社と合せ六社といふ
を一社に會祭し山口六社大明神と号し志
布志の宗鎮たるゆゑ享保十九年甲寅二月神祇道管領
勾當長上從三位行侍從卜部朝臣兼雄正一位の宗源宣
旨を奉納し華表に正一位山口大明神八字の額を掲く

春秋の正祭ハ濱殿下りあり南ゝ秋ハ流鏑馬を張行

を鐘楼ニ古鐘を掛く其銘ニ

讃岐国石志尾八幡宮鳥鐘金輪聖王天地久両庄豊示
吏民安社家繁昌興佛事結緑上下願圖満
文永六年己巳十一月日
大工丹治是助　亮秀坊

當社の安地ハいにしへより白馬の入さるところ異事なり
といふ天智帝白馬ニ乗りたまひを停り給ハさりし地を
由縁なりといふへし帝のかくれさせ給ひしを顯娃郡
開聞神社陵の下に志れしぬ侯せ召れ乞し

若宮神社　志布志村ニあり（志布志村を里俗ニ帖村といふ）地頭假屋より
卯辰方弐町八間余祭神一座（持統天皇祭正月初戌日）山口大明神春
秋の祭市渡とて神輿を此社ニ行幸して祭祀あるを

秘山容教院寶満寺　志布志村ニあり地頭假屋を距ること
卯方三町余律宗京都泉涌寺南都西大寺両寺の末ニ
して開山信仙上人（鎌倉極楽寺開山忍性菩薩の弟子）本尊如意輪観音（坐像）
（長二尺八寸五分運慶一生涯不意の逸作脇立多門天持国天同作）當寺ハ九十四代花園
院の御宇正和五年丙辰の歳信仙上人院宣を蒙り当国
ニ下向し當寺を建て勅願所となし元應二年本寺西大
寺より下向今本堂ニ安を（観音蓮臺下ニ元應二年庚申九月十七日造功畢南都於西）

大なる開眼願主光信九工門入る事教と記を拠とあるに新
主三人ありて光信ハ京町入る者ハ仲津川勘解
由左衛門也教ハ出入る也拠とる運営ハ
姓氏詳かならず 興正菩薩の開眼といひ傳ふに又寂を建久
建久年中の人なり又興正菩薩ハ正應三年に
より正應ハ九百年の後なり又元應二年ハ興正菩薩の
至ハ三十一年後にあらざる時代甚遠へり
開眼にあらざるを知るへし運慶作の霊佛を元應二
年再興して蓮臺等を改め作りしを寺
傳附会して語るものなるへし 本堂に圓通閣 支那
高泉書 三字ノ匾額を掲 毎歳正月元日より一七日寶祚長
久天下泰平国家安全の祈祷を勤む就中正月十八日の
夜大法事を修行し観音の霊験新にして平日參詣の人
絶えず殊に産婦の擁護深きによつて平産の護符を出すと
いへり 本堂の左に鶴ヶ岡八幡宮 例祭十一月九日 地添陀業卿観音也 三

寸六分余精金にて鋳出しと安置し給ふとなんいへり
秘佛當寺一住一度拝を
へより住持上京して院参の寺格なりしか中古池魚の
災に罹り此事を廃せしにより住持仙秀和尚上洛し
て古院室を搜索東山泉涌寺に就て勧修寺前大納言經
廣卿紹介として院参の旨を許され百九代後水尾院の天
聴に達し萬治二年己亥十一月院室を蒙り同月十九日
院參して龍顔を拝し其後爾来住持代々院参せしに住
持玉鑑和尚 参應出老 百十八代後桃園院の勅許を蒙り安永
七年戊戌六月廿六日参内し其後住持門和尚寛政元年
己酉十一月十七日参内し永く参内院参の寺格となれり

當寺什宝舎利塔とて第一とす足利左兵衛督源直義
一国一粒奉納の舎利なり事は直義暦応三年寄進状に
見えたり 直義院宣を下したまひ一国一基塔婆を建らる宝満寺の塔婆廃して今は見へず
大門の二王の石像は応永八年辛巳三月三日向川原
の合戦に邦遠薩摩九郎が従兵熊田原兄弟十九歳十六
歳の若武者戦死を遂諸人哀憐に堪ず二世安楽の為に
兄弟の形代とて二王を彫刻し安置せしといふ此説は事
無きにまてさしにもあらぬ
運慶墓 宝満寺山中にあり銘文なし 運慶は仏師定朝六
代の孫にて建久八年東大寺照仏を作り世に名を紀

人なりける説に云宝満寺の本尊下向の時側を離されて
て当寺に下り来たるところにて死したるゆへ廟所ある
といへり観音大士を元応二年に下向にて建久よりおく
れたること百有余年時代遠へり此誤りなるへし
中之宮神社 安楽村に鎮座地頭假屋より申方を里七町
弐拾間余祭神一座 天智帝二の后玉依姫祭正月酉日 慶長十二年丁未十
二月宝殿造立の棟札を納む
新豊山永泰寺 志布志村にあり地頭仮屋をさること巳
午方四町五十間余曹洞宗福昌寺の末寺にて開山代賢
守仲和尚 福昌寺十八世 本尊釈迦如来 坐像長さ弐寸定朝作 天正七年巳

卯三月建立邦君大中公の位牌を安置し

蜜巌山犬陸寺大性院　志布志村にあり　地頭仮屋の寅卯方七町余真言宗大乗院の末寺にて開山良範法印本尊阿弥陀如来 坐像長弐尺六寸五分行基菩薩作 寺内天海宮を安し例祭十一月廿五日新納悪四郎久顕形代といふ天文三年甲午八月廿八日新納近衛守忠勝建立神体の内に銘あり

山仮屋　志布志村にあり　地頭仮屋の丑寅方凡八町許り大性院境内の山中にして五反計りの平地なり三十九代天智帝后大宮姫のあとを慕ひ給ひ潜にこの地に渡り給ひ仮に宮居を営ミ給ひしかハしはらく皇居なりし所といふ伝ふ

志布志屋鋪　志布志村にあり山仮屋の下なり天智帝山仮屋に潜居したまひし時此屋しきの主の妻布の手拭を献る其の頃召仕の下女も同じ布の手拭を献る天皇叡感斜ならずして上下よりの志しに布を献るらん是誠に志布志なりと詔ありて此所を志布志屋しきと名付給ひ今後人専布志とよびて一郷の名となしゝとぞ今も此辺田畠の字志布志屋舗の名のこれり衆妙集に

霜月廿八日日向国志ふしといふ所ちかきわたりまて冬枯に柳の残りたるを見て

法印玄旨

名残すゝきも柿をうきとりてなくとおもしと
やかふりくらん

福寿山無量院海徳寺　志布志村にあり地頭仮屋を距
ること申酉方凡七町三十間時衆宗相州藤澤山の末に
して開山託阿上人 七世なり本尊阿弥陀如来 立像長さ尺七寸五分定朝作
暦應元年戊寅の歳託阿上人巡行の時建立せりといふ

有明の浦　志布志村の海濱をいふ地頭仮屋の午方八町
此浦と眺望するに東は日州福島の浦土肥の岬南は内
之浦火崎の鼻西は隅州高隈嶽一眸の中にしてあるに

枇榔島権現島ふたつありまた風情いふもおかしきなし安永
三年遊行五十三世尊如上人当地に巡行して
他阿尊如
たくひなや志らぬ名所の月の影ほかなりのおしみの浦

権現島　有明浦のおきにあり林岳高く此浦の波濤を除く
波上権現を安置し例祭九月九日宝満寺拾護なり

松尾城跡　志布志村にあり地頭仮屋より酉方武町余楡
井遠江守頼仲居住を畠山治部大輔直顕落去の後新納近江守時久居城となり子孫延て爰に住せ當城の守護神荒王権現社なり

時久の子孫新納近江守忠勝天文八年七月廿六日没落
し島津忠朝（忠朝ハ今島津内膳久丘カ祖なり）領地となる
内城　松尾城の東にあり　邦君齢岳公應安中大始良内城
を去て爰に移りたまひ恕翁公にいたりて居城し給ふ
腰掛石　麓の弓場坂の内に埋りもと丈許りの石なり天
智帝暫腰を掛たまふといひ伝ふ今ハ山口神社境内なり
此時此に偈りて神輿を止むるハ是ある事を伝ふと云
龍興山大慈廣慧禅寺　志布志村にあり　地頭仮屋を距る
こと申酉方十一町臨済宗関山派京都正法山妙心寺
の末にして開山玉山和尚（初諡佛智大通禅師南禅寺開山大明国師の法嗣生国信濃国井上氏人観應二年辛卯五月廿五日入定）　本尊千手観音（運慶作）當寺ハ暦應三
庚辰の歳楡井遠江守頼仲隅州肝付に建立し帝釈寺と
号す（頼仲ハ高山弓張城に居住し宮方将軍に属ス）　其後今の地に移し大慈
寺と改む後廣慧の二字を賜ひ大慈廣慧禅寺と号すと延
文二年丁酉二月五日頼仲畠山治部大輔直顕と戦ひ利
を失ひ寶池菴にいたり自殺す辞世の偈頌位牌の裏に
書す

大事因縁五十七年　遊戯自在　劔樹刀山
むかしも又いまもこのとしれ廿月乃ぬに
今に河里

頼仲石塔寶池菴（今壊る）の寺地なり十境八景なり十境
ハ菡萏峯檳榔島夜明庭雲秀溪潮音閣拈華堂烹金炉止
ゝ庵清涼軒緑池八景ハ龍山春望古寺緑陰野市炊烟漁
浦帰舟橋邉暮雨江上夕陽東営秋月西塞夜雪（支那高泉悦山鐵牛
南源等の詩あり左に載す）将軍義詮三州の乱を鎮めん為に朝山出
雲守師綱同小次郎重綱上使となりて明徳二年下向怨
翁公當寺において對顔なり盛饌を進られし和漢の會と
催しのふ又文禄五年七月廿五日近衞信輔公当寺に着
ありし旅宿となし給ふ信輔公阿蘇玄與に発句せよとあ
りければ

浪のこゑや松に入江の秋の海　玄與

又同七月五日志布志を出船し給ふを祝して

追風も有明の月に舟出かな

菡萏峯　天德南源

菡萏峯如菡萏開亭々玉立脱凡胎背年曽入諸禅夢感
得地無半點埃

檳榔島　仝

檳榔島湧寺南隈常有仙翁採藥来何處鳴榔明月夜漁
人得意弄潮来

夜明庭　弘福鐵牛

十里汀沙夐布霜星河臨映散晴光幾回誤認門前曉夜
半鐘聲出上方

雲秀溪　南岳悦山

秀麗清溪足練分廣長舌相好音聞神龍錦鯉為宮殿曉
夕飛騰有彩雲

潮音閣　弘福鐵牛

閣涌碧空客法界不須彈指引追尋雪濤影裡宛然坐満
耳潮音諸梵音

拈華堂　佛国高泉

誰建梵堂似鷲山鋪金抹緑照雲間金花猶在迦文手只
是無人解破顔

烹金爐　仝

此間原是大爐冶鈍鐵頑銅那敢當獨有真金終不変愈
烹愈煉愈堅剛

止止菴　南岳悦山

菴中静坐豁雙眉指顧溪山分外奇止止不須嗔口説従
来我法妙難思

清凉軒　仝

茅茨結搆倚山丘蔽日松篁陰氣浮長夏渾忘三伏暑晚
来爽納一簾秋

緑池　仝

室後鑿成半畝塘巧心妙手莫能量一泓烟水鴨頭緑倒
蘸両輪日月光

龍山春望　天徳南源

山頭雲起欲從龍忽聴雷聲震九重倒岳傾湫興大用沛
然法澤瀉三農

古寺緑陰　佛国高泉

梵王宮殿立何年煙檜霜杉影接天経過乾坤如甑日火
雲飛不到庭前

野市炊烟　弘福鐵牛

交易向曛人散遅忽聴玉笛酒樓吹青烟乱撩四相合户
々黄粱夢熟時

漁浦帰舟　仝

日露長洲人曝網村幽孤樹翠成堆潮平萬頃玻璃面訝
見仙槎天上来

橋邊暮雨　南岳悦山

両岸横安鼇背濶人無病渉往来過陰雲拂地黄昏候俄
爾為霖潤物多

江上夕陽　弘福鐵牛

松門日々立斜暉慣聴蒲牢吼翠微風落遠帆望處没江

空水鳥逐潮飛

東營秋月　　佛国高泉

簷牙堂角露林端夜静往来倚曲欄一片氷輪升碧漢射人毛骨亦皆寒

西塞夜雪　　仝

冬深夜永月凝光六出紛々下碧荒若使三軍親到此猶疑為主守邊疆

即心院　大慈寺の塔頭ニて左服ニあり開山剛中和尚大慈寺二世本尊釈迦坐像邦君齢岳公及ひ君夫人の廟所あり

千年松　大慈寺の南六月坂の松林ニあり昔し慈眼公志布志ニ光臨ありて帰里あらし時大慈寺住僧龍雲和尚送りまいりしに此樹下ニ休息しあひし所なり

家久

絶せぬや契りをかはる枯ならんちと勢の松の陰の休らひ

時ニ龍雲著詠を和しありて

平原砂麓又層巒今日送君思万般獨立亭々松樹下高歌一詠和皆難

是よりして千年の松といふといへりいにしへの松ハ枯て栽継るよし　今の松も何る猶かまてをお比栽し

とはいへり

御在所嶽　田之浦村にあり志布志第一の高山にて地頭仮屋を距ること子方三里余天智帝此嶽に登臨し給ひ薩州頴娃郡開聞嶽を眺望し后の崩ませし所ゆゑにとて宮居を立給ふと云へり御腰掛石とて今にあり崩御の後和銅二年乙酉六月嶽の絶頂に霊廟を建て山宮大明神と号す石小祠を安置して天智帝之廟と五字を彫刻す 大慈寺住持常天筆記 又二祠あり ひとつは帝の供奉の人々ひとつは山神なりといへり 此所頴娃平ともいふ

山宮神社　田之浦村に鎮座地頭仮屋の子方弐里余祭神

一座 天智天皇例祭二度 正月卯日九月卯日 当社は初め御在所嶽に鎮座ありしを開聞嶽見へて祟りをなすとて爰に遷宮ありといひ伝ふ元亀二年十二月廿六日山宮大明神御宝殿造立伴兼亮息災延命伴兼朗弓箭勝利子孫繁昌と記せる棟札を納む此時遷宮ともみえたり内陣白銀の幣を納め又古鏡三十四を奉納ある祭記の時儀猪と称しいにしへより今にありて例祭の前申日いにしへ狩となし 正月は宮谷 九月は 御在所 森倉 獲しものゝ鹿猪は社殿を三度廻る故事にて社のたる川の流に漬置祭日神前に供ふ鹿角は皆社内に納て今も故事を知るものなし棄ぬるはかゝる意趣

の山中小社にて銀幣唐鏡なとを納し或は其の社と
いふへきり地 古鏡の内一ハ裏ニ銹出の紋あり紋云賞得秦王鏡口不措千金非閑欲照膽特是自
明心納むる所の鹿角其数多し
内ニ奥角なり品と写しぬ

平瀬　夏井村の海中渚をさること三町余にあり凡五六
反許りの平瀬の上に瀆あり清涼の名あり那君志布志
に光臨しありし時ハ必らす此瀬に渡海ありしといへ
り海鰕不決明蠣なからめ 鮑の類にして小なるをなかちめといふ　赤貝海
草多し

船磯　志布志村にあり往昔磯島を過りて天智帝下向し給
ひ此所に御船の着たる所なへ船磯といふといへり今

一ハ田地となりてを名のミ残れり

檳榔島　志布志午方海上弐里志布志に属せる島の廻り凡
壱里余怪岩樹竹殊に檳榔多し巓に檳榔御前の祠あり
祭神一座乙姫宮 天智帝御姫母ハ二の后なるよしいひ傳ふ 例祭正月申日天
子遷幸に用ひ給ひし檳榔毛の御車檳榔の葉ハいにし
へより此島に産せるを献るといふ寛政二年庚戌十二
月仙洞御所 百十八代御諱智子 櫻町院第二皇女 遷幸の時も檳榔葉百五
枚近衛家所望しのひしによりて京都に贈て禁庭に献せ
らる按するに保延五年十月八幡賀茂詣日檳榔毛の車
用ひのひ又永承元三年十一月春日詣の時も檳榔毛を用

ひかひしことゝみへたり餝抄（中院通方卿撰集）毛車の條下執柄
家禮之人用檳榔毛檳榔前關白近衛領鎮西志摩戸庄土
産云々仍所望用之云々とみえたり志摩戸ハ薩隅日の
總名島津のことなり往昔近衛家の領地薩隅日に所々
多かりけり寛政二年近衛家所望しかひしもありし由縁
なるにや

濱宮神社　安樂村船磯に鎮座なりされ檳榔島檳榔渡前
の神靈と崇まつれるところなり海路なりおしあれ
ハとて爰に勧請し濱宮大明神と号す

一宮神社　安樂村に鎮座地所仮屋より申方七里十七町

余例祭正月末日當社ハ天智帝船磯に着給ふ時此所に
夫婦の老人居住して一夜の御宿を備へまゐらせ鮑螺栄な
とを云りて供御にまゐるといふその二人の老翁嫗を一
宮と崇め祭るといふ今も山口神社正月中午日祭に鮑
さゝえの作り物を供ふることは此由縁とかや

鎮母神社　安樂村に鎮座地所仮屋より申酉方七
里五拾間余祭神一座（天智帝一の后倭姫大友皇子の母といふ祭正月廿日是を杵搗祭といふ）
勧請年月詳ならず

正若宮八幡　新橋村に鎮座地頭仮屋（同村に）なりと距る
丑方七町許り祭神及び勧請年歴詳ならず（例祭二月二十五日）

十月二十五日社内衣冠の木像一軀を安せし又神鏡一面を納む
裏に神号を書し永禄九年丙寅十月廿五日願主圓満坊
と記せり往古の神體と見えたり是を本邑の總鎮守とす
本社の左に摩利支天社あり右に稲荷大明神社あり社
司を庄司右近といふ真言宗蓮華院社司を護す

八幡山壽福寺蓮華院　新橋村にあり真言宗大楽院の末
にして本邑の祈願所なり　正若宮八幡の別當職を勤む
天徳元年丁巳の歳創基なりといへ傳ふ開山僧詳ならす
られ中興開山堯日法印寛文四年示寂月日傳はられ本尊阿弥陀薬師
観音の三尊を安置して八幡の本地なりといふ

霧島山蒼龍菴　新橋村にあり地所仮屋の午方三町許り
曹洞宗福昌寺の末なり開基年月傳はらん本尊正観音
代賢守仲和尚志布志永泰寺の開山を勧請して開山とし初め志
布志永泰寺の末なりしと見へたりいまの年何世住
僧の時に福昌寺末となりしや詳ならす本邑の菴捴
ちとん

都城

都城舊趾　五拾町村にあり所は仮屋都城ハ島津緑後久倫の所なりを
距ること戌亥方凡拾五町許り永和元年乙卯の歳北郷
讃岐守義久始て築く所にして世々居城とす　都城と

名付といふ文禄四年伊集院右衛門大夫忠棟謀計によ
て義久九代の孫左衛門尉時久城を去て薩州祁答院宮
之城に移り忠棟に庄内を領ふ忠棟此城をもて居城と
し凡八万余石の主となり権勢日に盛なりしに六年を
経て慶長四年陰謀露顕し邦君慈眼公忠棟を誅しける
忠棟嫡子源次郎忠真都城に楯籠り安永山田志和池野
々美谷高城山之口勝岡梶山梅北末吉恒吉十二所に砦
を構へ亡父の讐を報めんと欲すを公庄内に出馬ありて忠
真を征し給ふ兵革歳を越へ忠真降参ス公庄内の地を
北郷次郎忠能に給ひ都城に移る（忠能ハ時久の嫡孫初名長千代丸と称ス後）

讃岐守と改む　元和元年八月大家の鈞命によって忠能城を下り
て宅地をトし今の地に移る故に城地は松杉の林とな
りて其遺跡存せり後久倫は忠能十一代の孫なり

正一位兼喜神社　五十町村に鎮座領主仮屋より戌方七
町余祭神一座（北郷常陸介相久の霊本地正観音例祭八月晦日三騎の鏑流馬を張行す）天正
九年故ありて北郷左衛門尉時久（時久ハ相久の父なり）社を造営
して霊を勧請し若宮八幡と崇む祝子妹尾重貞として
東門に移し社務職とし南門に僧坊を建て延寿院と名
付る実成法印を別当職となし西門に禅閣を建て常徳
寺と号し大年和尚をして幽魂の菩提所となさしむ後領主

讃岐守忠能慶長七年十月北門ニ密院を建て本地院と号し舜興法印を院祖とし同十三年妹尾重親として神祇官領吉田兼治ニ神階を請ふ兼治若宮の二字を削て霊の一字を加へ霊八幡と称す又明暦元年十月吉田兼起ニ請ふて兼喜明神と改号す又天和二年壬戌の秋吉田兼連神号ニ大の一字を加へ兼吉大明神と増進し五字の扁額を表ニ掲享保十九年五月吉田兼雄神位正一位を授宗源宣命を奉納し正一位三字の額と宝殿ニ掲是皆北郷氏の崇敬厚きゆへなり本邑五社の第一ニして総鎮守といふ

松林山成就院天長寺　五十町村ニあり領主仮屋より未申方十四町真言宗大乗院の末ニして開山舜叡阿闍梨本尊十一面観音坐像　天文七年八月北口讃岐守忠相建立して祈願道場とし天満宮を草建して鎮守とし国土安泰を祈らると天長と名付る院盤茂のきさと祝して山を松林と号せしと云しむかし比丘尼あり此時長松の下に卜居す時人呼て松林尾和尚と称す故ニ松林の号をも祢るといへり　護摩堂本尊不動明王立像長五尺恵心僧都作往古梅小村西ニある幽谷ニ安置せし或時野火焼来りて堂宇灰燼となる人命されと嘆きて後猟師犬を牽て彼所を過ぎ一株桜樹下ニ至れハ犬吼ること頻なり猟師怪み見るニ桜樹ニ明王卓尓として立諸人群集して参観を

即彼本尊は点も瑕すし何也へは当寺に迁したるや未由詳なりけり今彼桜を不動桜といへり服拘毘伽羅勢多伽財部延寿院実成作

長城山龍峯寺　五十町村にあり領主仮屋の未申方十二町余曹洞宗福昌寺の末にして開山起宗守興和尚 帖佐総禅寺住侶明応六年三月四日迁化 本尊薬師如来 坐像安阿弥作 当寺を北に谿汝寺忠相母堂松庵妙椿大姉 島津忠治季久母 の為に草創を開山起宗は妙椿大姉の肉弟なり故にここに招請すといふ爾来以て氏代々の菩提寺となれる

蟠龍山興金寺　宮丸村にあり領主仮屋より亥方十町許り臨済宗関山派京都妙心寺の末にして開山香山悦和尚本尊阿弥陀如来 秘仏にて一雲時久作安永千多羅寺村にとおて柳をもて阿弥陀の像四躯を彫刻あり効験無双の霊仏にして世にいつの四阿弥陀といふ三躯は川東の宝楽寺跡と菱谷の選立寺安永の山久院にあるを初め宮丸蔵人道時の開基といふ其年月今詳かならん

亀渓山延命寺　五十町村都城旧趾山涯にあり時衆宗藤沢山清浄光寺の末にして草創の年月伝わりし領主北郷讃岐守義久弟彌次郎基忠永和三年三月戦死の後建立して菩提寺となりし本尊地蔵菩薩は基忠の形代のよし伝へたり中興開山但阿上人 遷化年月詳かならん

神柱宮　梅北村にあり鎮座領主仮屋を距ること巳方九

壱里祭神伊勢外宮（本地州見菩薩正祭九月 九月壱騎鏑流馬あり）當社ハ平朝臣大監末基若貫ニ住居して萬壽三年丙寅ハ正月廿日大門を建んと欲し門柱の良材を大吉山より人をして拏しむ時ニ神託の旨ありて同年九月九日社殿造立をとしいふ同時ニ内宮を出羽國庄内ニ現し東三十三箇國を守る外宮ハ日向州庄内に現し西三十三箇國を護り玉ふと云し故ニ神柱両社と称し日本二柱神といひ傳ふ事ハ縁記ニ詳り取り什宝ニ太刀六腰長刀一振紺紙金泥法華經八巻紺紙銀泥法華經八巻を納む其外什物多し

萬年山龍泉寺　五十町村ニあり領主假屋より戌方拾町許り臨濟宗関山派京都妙心寺の末ニして開山大明国師（勧請開山）本尊正観音（坐像）初め五山派ニて霊照山鷹福寺といふ小院ニて讃岐守義久の嫡子安次郎久秀二男又二郎忠通梶山ニとりて戦死時ニ菩提寺として草創といふ中興開山大年崇延和尚（出世紫衣足利将軍権大納言源義照御小所の補任状数通今ニ所蔵す文安九年甲辰十一月二十一日遷化）北郷常陸介相久菩提所となして萬年山常徳寺と改む後小ニて式部大輔久直花心琴月公の霊牌をあるにおいて今の寺号ニ改むといへり

常照山攝取院光明寺　五十町村にあり領主仮屋の戌亥方十四町許り時衆宗相州藤澤山の末にして開山託阿大和尚遊行十世本尊阿弥陀如来立像長弐尺五寸安阿弥作 脇立勢至観音長さ弐尺七寸同作初め貞和二年畠山治部大輔建立にして梅北村益貫にありしを天正三年乙亥十二月廿七日北郷左衛門尉時久今の地に移して再興せしより本堂の隅に一遍上人の像を安置す初め大林山といひ後松林山といふ遊行四十九世一法上人廻国の時常照山攝取院光明寺と改むといへり

深心院十念寺　五十町村にあり領主仮屋より酉方凡十八町浄土宗鹿児島不断光院の末にして慶長十四年北郷讃岐守忠能貞譽上人を請待して建立す本尊阿弥陀如来坐像行基菩薩の作といひ伝ふ初め如覚山本覚寺といへり

霧島山大曼荼羅院西生寺　梅北村にあり領主仮屋の巳方凡壱里十八町許り真言宗大乗院の末なり本尊阿弥陀如来立像秘仏由来記を按するに当寺は小松内府平重盛の開基にして年月詳ならすを伝へ称す重盛病中夢想に西国の霊山に霧海の浄土あり其地に寺を建立すへしとありし重盛祈願を凝され病悩頓に平愈せり即大橋中

將と當国ニきーして霧島山の麓挾野ニあると建立ーして霧島山西生寺と号し知行若干と寄附して伽藍となると其後或夜神童来りて住僧尋譽上人ニ告て曰三日を過て必らん震火ありて堂舎僧房盡く回禄をつし速ニ三里の外ニ退ると云ことにをいて四拾貳坊六ヶの末寺住侶ある本尊及ひ什物山玉をも護して南方七八里今の梅小の地ニ移る果して震火ありてあ屋一山皆燃崩を実ニ仁安二年なり故ニ上人今の地ニ伽藍を再造して中興開山とするなり初め天台圓宗派なりといふ文治九十一代伏見帝の御時勅して大曼荼羅院五字の額を賜ふて

本堂ニ掲（裏ニ永仁三年乙未七月十日正四位下左少将佐藤原定成書と記を今傳へて什宝とをまく平重盛寄進のよし傳へて琴一面を蔵む裏に御寄進西生寺阿弥陀如来御佛前と記を損失多し）本尊阿弥陀の像ハ天竺ニをいて月蓋長者閻浮檀金をもて鑄る所の霊像ニして信濃国善光寺の本佛なりむかし乱世の時當寺ニ下向ーありしといひ傳ふ堂ハ七間四面四方縁天井ハ唐木組入天井八方より鐵鎖をもて釣ア柱ハ朱塗釘ハ正宗作頗る善光寺の堂を損し荘厳最端麗ニして美を尽せりといふ明應九年三月新納近江守忠武梅北を領せるの時再営を具後本堂の後山岳崩きて堂舎を埋ミ本尊弥陀の像と観音の像ハ現ハ
まきのひし

ヶ勢至の像ハ遂に如くれかよ今の勢至ハ延寶五年丁
巳四月邦君寛陽公如来を薩府城に迎へ暫く留め後光
及ひ厨子を修造しかひし時寄進ありしとそ（一説に智至の蓮臺もりと寄進といへり）同年七月西生寺に返し给ふ其時領主筑
後忠智三間四面の堂を営ミ三像を置し大曼荼羅院の
勅額を掲客殿の阿弥陀ハ本ハ智證大師の作（立像長さ尺七寸）
鎮守山王そちの右山中に安さ社の後白梅あり無根梅
といふ尋譽上人入唐の時携へ来り植置し古梅にて朽
根の訖きる所なし紀ハことくなれハ無根梅と名付し
とそ今其種苗一樹あり

天ヶ峯 西生寺の東なる高山なり齢岳公陣所の趾なり由
縁黒尾権現祠の下に記せり
黒尾權現 梅北村益貫に鎮護所主伝在の巳方去里六町
許也祭神愛宕（本地地蔵愛染不動祭十一月十日）永和三年齢岳公勧請しか
ふ初め伊東相良北原の三家一味をなし新野某を大将
として蓑原に陣を取北郷讃岐守義久の都城を圍む義
久籠城して難儀せり齢岳公これを聞めしハ永和三年二
月中旬志布志城を発向して梅北天ヶ峯に陣し後詰の
時西生寺服坊井上坊をして愛宕に祈願しめらハ同月七
八日天ヶ峯を去りて末吉平波瀬（五十町村）に陣し手勢を三

つゐ催り蓑原の敵にむかひ三月朔日より三日の
戦ひ敵方打負下財部村のうしろに引退勝利を収めしと
云ふ故に其宮社を造営し黒尾権現と崇め祭ふ此日の
戦ひ義久僅の伏兵にて大勢の敵兵を打破ると云ふ
数ヶ所の疵を蒙り弥次郎基忠同七郎忠宣戦死を遂く
といへり

雞足山二厳寺 宮丸村にあり 領主依臣を頼みて亥子
方十四町許り臨済宗関山派京都妙心寺の末寺にして開
山秋江和尚 山口讃岐守義久の弟二子 本尊釈迦如来 坐像土佛漢土より一切経と
共は請来ありといふ伝ふ 初め秋江和尚諸国遍歴の後爰にありて

国水流の上に建立し安居を歳を経て田禄し今の地に
移すといふ鐘楼に正平二十四年誌る所筑後州三潴庄
宝林尼寺の供鐘を掛て天正十四年領主にて弾正忠虎
豊後国に出陣し軍功の験として大般若経六百巻と共
に携へ帰り寄進せる所なり

菖蒲原 下長飯村 井能田村を里俗下長飯村と呼ふ の野原にあり 都城には数里
の平地広くたりて原野多し此所もまた牧里の野
ぶにして牛馬を放ち肉くさの用を助る所なり 東西八
町許り南北凡弐町余土池湿気をたもちいましへより
ふるて自然の菖蒲を生し名付てあやめ原といふ夏四
月五月に至れは花開尤色濃して他所の菖蒲に異なり

国立公文書館
National Archives of Japan

草花を賣るもの是を庭中にうゑ置一年とゝまれハ邑落
し世人呼て庄内菖蒲といへり

新磯六所權現　梶山村ニ鎮座假屋の卯方凡弐里祭
神霧島權現ニ同し例祭十一月初酉　和銅元年社を建立して勧
請せしか往古火災ニ罹り由来詳ならす永正十七
年庚辰六月十三日　伊東尹祐造営の棟札あり

醫王山知足院正應寺　安久村ニ鎮座假屋の辰巳方
壱里十八町許真言宗大覺寺の末なり本尊藥師此像
ハ弘法大師入唐の時赤栴檀の霊木を震旦国ニ得て一
花一香一刀三禮の作にして大師彫刻三躰の其一なり
一躰は比叡山延暦寺の本尊一躰ハ越前国栄山寺の本尊一躰ハ當寺ニ安置す　初め仁安元年
丙戌の歳三井寺坐主二品親王の命によて天台禅慶和
尚長井氏辨佐使として日吉山王及ひ藥師の尊像を當国ニ
負ひ下り此山ニ安置し當寺を建て山王を以て鎮守と
し十二の坊舎を造營して伽藍となし　寶幢坊寶泉坊善福坊善蔵坊寶地坊大智坊井上坊常喜坊寶積坊座禅坊大輪坊竹中坊以上十二坊今廃して寺跡存す　天台叡山の末
徒なりしか数百の星霜累りて伽藍も荒廃し漸く藥師
堂山王社存在せしを永正中權大僧都宥喜法印なるを再
營し居住せしか三四世を歴て亦た廃ニ及ひたりしを
慶長十三年領主北郷讃岐守忠能再興し真言宗宥政上

人嵯峨法輪寺恭畏僧正の法弟として住職たらしめ同十七年十月田
七百石を寄附そこにといへく宥政をもて真言中興の
開祖といふ
當寺客殿のまへにある緋桜は開祖宥政法印植る
ところ或人薬師に請して枝を折て帰りしを法印兄
て追懐した或人の
杉志むとそ折れは花の色香世へとかえて桜の枝
はこそあれ
と詠したまへは法印をいさりしとかや請す此樹を正
慈の桜と呼ふ

稲荷大明神 郡本村に鎮座紀主伝気を祀るなと子方式
十町ばかりと祭神三座倉稲魂命天津彦々火瓊々杵尊伊荘冊尊年中祭六度正祭は九月十九日なり正月元日同初午日三月三日五月五日十一月中午日祭りをといふ當社は得佛公
薩隅日三州の守護職に封ぜられのひ薩摩山門院に下
着し日向方為に移らせ給ひて建久八年九月建立し
氏神と崇め給ふ社説に云得佛公初め摂州住吉社為に擁して誕生ありし時末社稲荷明神の擁護ありしをもて薩隅日三州の封を受給ひ建久七年八月薩州山門院に下着し翌八年日州諸縣郡為律庄に始て御殿造りておはしましし是を祝吉の御所といふそ年の九月稲荷社建立ありて九月七日柱立して同十九日に遷の儀をとなはれしとそ祝吉を為はといふによて俗に為は稲荷と呼なり又為六ともいへり今郡本村と唱ふ
又和光寺を創建して為當職を掌らしむる

社司と兒東某といふ

祝吉御所趾　稲荷社の辰巳方八町ばかりにあり建久八年得佛公薩州山門院より日州島津の御庄に移り給ひて御館造りておはしましける所なりとぞ趾今に存していましへの門の跡などいひて塚築きてあり象をろに

得佛公幼なくおはせし時生母丹後局に随ひ八文字民部太輔惟宗廣言の家に育てられ給ひつり初め廣言は日向国司にて島津に居住し給ふといふされば公の御鎮の為津にありしことそのころ廣言の家に育ち給ひし時既に此の御館にましましけるをん日又建久中国に就のひて始めてこの荘鎮に移り給へるなりとぞ今詳ならずしかれども姑く土俗の伝ふるところを記すといふ

命婦山玉覺院和光寺　稲荷社鳥居の左側にあり真言宗

天長寺の末寺にして稲荷神社の別當寺なり開山權大僧都舜全（寛長七年甲辰七月二十四日遷化）本尊十一面観音（立像長一尺七寸作者詳かならん）建久八年十一月得佛公創草し給ふといふ

関の尾瀧　安永村にあり領主仮屋より戌亥方凡弐里許水上は財部郷より出て西にありて東に落る瀑なり高さ僅に十丈余幅三四間左右野呂岩岸にして躑躅多く春花の時風景尤よし

霧島山金剛院明観寺　西嶽村（安永村なり今俗に分て西嶽村中霧島村と唱ふ）にあり領主仮屋を距ること亥方五里ばかり天台宗南泉院の末寺なり開山性空上人本尊不動明王（立像脇士金伽羅勢多伽）

當寺ハいにしへ性空上人の開基にして不動堂を建立し霧島山の南門と唱ふるよて霧島山不動堂明観坊と号しいつの比よりか修験宗山伏住職なりけるに寺宇荒廃に及ひたりしを正徳の初め命ありて再興ありし南泉院の末寺となし僧智空（宝暦七年丁丑十一月晦日入火定八十三歳）をもて住持とし今の院号とハなせり

荒嶽権現社　不動堂の東にあり霧島山御鉾の折を勧請して荒嶽権現と崇め奉りしといふ勧請の年暦を傳へすを本地十一面観音明観坊住僧これを護る

山之口

走湯権現　山之口村に鎮座地所仮屋（同村にあり）を距ること寅方四町余本社伊豆走湯権現（例祭十一月十五日）當社由来を按するに建武四年土肥平三郎實重建立すと云ゝ（土肥次郎実平三代の孫なり初め実重畠山治部大輔に従ひ日州肝付八郎兼重以下山徒誅伐として建武三年十二月五日下向し福王寺に下着し翌年三月畠山兵料所として福王寺の地を実重に与ふ実重後に福王寺と号す）いにしへハ四ヶ寺の坊舎あり東之坊西之坊南之坊北之坊といふ今三坊廃してなし天文三年北郷讃岐守忠相山之口を領するに及ひて走湯権現をもて本邑の総鎮守となし別当を梅谷山示現院修善寺といふ即いにしへの東之坊是なり真言宗大乗院の末寺にして開山快朝

法市中与開山ろ信法市（万治二年五月十日内折生迫の沖ニて溺死）本尊千手
観音（坐像長八尺行基菩薩作）土肥実重安置みして権現の古地なり
西国みハ無類の霊佛みて六月十八日殊ニ参詣多し

山之口古城　山之口村ニ有り地ハ仮屋の丑方六町許り
名付て亀鶴三石城といふ初め平氏の侍悪七兵衛景清
築しなりといひ伝ふ　山城みして左右ニ尾筋あり右を
亀の尾左を鶴の尾といひ景清ハ亀の尾ニ居住せりと
いふ城北五六町許り金剛山福王寺といふ舊寺地あり
（福王寺ハ正保中まてハ有りしと旧記ニ見へたり今廃寺）茅葺の小堂を営ミ其内ハ
本（立像長四尺余）の木像を安して景清の女人丸姫の形代なり

といひ伝ふ景清ハ日向国宮崎ニ居住といふ宮崎ハ本
邑とあるさと遠けれハ景清の居住ともいふへし其後
建武三年土肥平三郎實重源氏畠山ニ随ひ福王寺ニ下
築し三石城ニ住すと云天文元年伊東氏の領地となり
て長倉播磨守海老原形部少將籠城し同三年三月七日
落城して小口忠相これを領をす慶長四年庄内の内
冦ニ堀を浚ひ柵を構へ今ハ景清の縄張ともいひか
さめるへしとそ

桂昌山地蔵院十輪寺　山之口村ニ有り地ハ仮屋の卯方
弐町曹洞宗福昌寺の末寺にして開基年月詳かならす本

當地菩薩坐像 寛文九年己酉九月福昌寺三十四世
特峯代英和尚として勧請開山となし福昌寺末となる
永傳和尚元禄九年十一月十二日遷化をもて二世中興となるを初め都
城高木村に拾林寺といひしと傳へたり

的野山正八幡宮 富吉村にあり 地頭仮屋より午方壱里
弐町許り本社隅州正八幡宮例祭十月二十五日 和銅三年勧請上
古三俣院の崇廟にして大社なりしといへり社司を亀
沢某別當寺を的野山花藏院弥勒寺といふ真言宗大乗
院の末なり初め八幡宮同時に建立して天台宗なりし
よし傳へたり開山僧傳らず中興盛圓法印 万治二年亥七月六日遷化

本尊弥勒菩薩坐像 脇坊大林坊多門坊金藏坊福藏
坊滿藏坊金光坊ありしといへども今悉く廃して本坊
のみ存す十月廿五日例祭には御手洗池の脇に仮殿
を設け三ツの神輿を守り下る是を濱殿下りといふ中
の神楽を第一と定め神楽を奏し行列舊規に随ひ各〻
式ありまた大人弥五郎と呼て長八尺許りなる人形を
作り四ッ車に乗せ十二三歳の童子大勢にて押し廻り
引廻して往古大隅に隼人を征しがたき事なりといひ
つゐを権楽させりなるをまた武具を用ゐるは北郷忠相
山之口を領せる此時初るともいひ傳ふ

勝岡

諏方神社　勝岡村（勝目村今里俗呼て蓼池村と唱ふ）にあり地所仮屋とさることを卯方四町許ニ在り祭神前に同し（祭七月廿八日）天文十二年正月十八日遷宮の棟札を納む此時勧請なるへし本邑の崇廟なり

無量山連乗院長久寺　勝岡村にあり地所仮屋より午方弐町許ニ在り真言宗大乗院の末にして開山重鏡上人（遷化年月伝ハらす）本尊阿弥陀如来（坐像）開基年月詳ならす

鶏足山梁新寺　勝目村にあり地所仮屋より子方凡弐町曹洞宗福昌寺の末にして開山（伝ハらす　開基年月伝ハらす）本尊薬師如来（坐像）是を本邑の菩提寺といふ

薩藩名勝志巻之十八　諸縣郡

薩藩名勝志巻之十八目録

諸縣郡

大王權現
眞光寺
法正寺
雛守權現
岩瀬川
昌壽寺
瀬戸尾權現
山神祠
本光寺
高妻大明神
福万寺
雛守嶽
觀音寺
寶光院 古鏡
圓岳寺
粥餅田

大年神祠
二之宮祠
一麟寺
幻生寺
峯八幡
長善寺
満足寺
六觀音池
大戸諏方社
木嵜原

世尊寺
須木瀑布
飯野古城
一之宮神社
愛染院
白鳥山權現
白鳥靈湯
出水觀音
保壽院
三角田 六地藏

太刀洗川
田原陣
金毘羅祠
不動寺
二之宮神社
威德天神
東福城趾
高牟禮權現
天満宮
昌明寺

二八坂
狗留孫社 端山寺
加久藤古城 御誕生杉
德泉寺
二之宮寺
威德院
大圓寺
澤原野池
觀音寺
吉田温泉

狭野大權現
霧島東御在所
錫杖院
二王門
御池
霧島六所權現十握劔
神石
春日神社（古鏡圖 東龍寺）
高稱寺
河添轟

神徳院
祓川
大黒天
閼伽井
霞權現
十握劔
勅詔院
石山寺
吉祥寺
宇賀大明神

幸樹院

海藏寺

野尻

大王權現　麓村に鎮座地頭假屋（同村にあり）を距ること丑寅方四町余祭神一座（振田彦命例祭十一月中酉日）勧請年月傳らす次野尻の惣廟とし社司川野某

岩屋山本光寺　麓村にあり地頭仮屋より巳午方五町許にて真言宗大乗院の末にして開基年月開山僧詳ならす次本尊薬師如来（坐像）寺の巳午方四町許り古城趾に大いなる岩窟ありて馬頭観音の像を彫刻し岩観音と名付く又小堂を営みて薬師を安置し次傍に梵字なるところへきり初め當寺の住僧是を安置せしゆへ岩屋

山とゝて山号とさだめし来由傳らず

長用山真光寺　麓村にあり地頭仮屋より辰巳方七町
余曹洞宗飯野長善寺の末にして開山素用和尚
馬関田大休寺二世遷化年月詳ならず　本尊十一面観音　坐像　安永元年辰十二月
廿八日火災の由緒傳らず初め古城跡野首にありしに
享保中霧島山燃ありし時砂石の災を被るにより
今の地に移すといへり

高妻八社大明神　紙屋村に鎮座祭神一座　藤田左近　正祭十一月
初申日　地頭仮屋の卯方凡弐里拾八町勧請年月詳ならず
なりし是を紙屋村の惣鎮守とす

正元山法正寺　紙屋村にあり真言宗大乗院の末にして
開山僧詳ならず本尊地蔵菩薩　座像　中興の僧を
盛賢　延享二年丑六月十五日遷化　といふ

流水山福万寺　紙屋村にあり曹洞宗高岡法華嶽寺の
末にして開山東岳和尚　法華嶽寺住僧遷化年月を伝へず　本尊薬師
如来　坐像　開基年月詳ならず

小林

雛守六所権現　細野村雛守嶽の麓に鎮座地頭仮屋
東方村にありを距る六里余凡壱里祭神六坐　瓊々杵尊　木花開耶姫
鸕鶿草葺不合尊　玉依姫　正祭九月十九日　十一月十五日
当社は村上天皇の御宇性空上人

霧島山に下向して古跡を探り六坐の神霊を雛守
嶽に勧請ありて世に雛守権現と呼び傳ふ初め
嶽の半腹に鎮座ありて数百の星霜を経たりしを享保
元年霧島山燃たる時今の地に遷宮ありといへり（旧社地は社の東なる嶽の八分目宮の字叙といふ所なり即其地なり）本邑の惣鎮守にして社司を
黒木某といふ

雛守嶽　細野村にありて霧島山中の一嶽にして
いにしへより夷守といひしを後いつの時よりか雛
守の字を改め用ひたる詳かならず人皇十二代景行
帝筑紫に幸し給ひ熊襲の乱を平らげて日向高屋
乃宮にいませしこと数年京師に還幸なしまさむとて筑紫
の國を巡狩し給ふに始めて夷守におはし給ふ時に石瀬
川（今岩瀬川の字を用ゆ）の辺に人衆く聚集るを遥に見そなはして
左右の人におほせて彼の集るはいかなる人ぞ若賊に
てやあらんみてまいれとて兄夷守弟夷守二人をさし
はさせ給ふに弟夷守聴て還り来りて諮して曰く諸
縣の君泉媛の大倉を献まつるに依てその族つど
へるにて侍るといひしこと日本書紀に見へたり

岩瀬川　東方村真方村の間に流る是いにしへの所謂
石瀬川なり地頭仮屋の寅卯方一里ばかり雛守嶽を

距ること丑寅の方二里余水源は諸縣郡と肥州求麻との境ん
山中にて水といふ所より出て小林路地を流れ野尻
を過ぎて遂に大川に流れ入て海に注く

中島山普門院観音寺　真方村にあり地頭仮屋より寅
の方凡卅町真言宗大乗院の末寺にして開山恵果法印（遷化年月
伝ハらず）本尊不動明王立像開基年月詳かならず当寺初め
別所にありしを寛永中今の地に移せしといふ

福城山昌寿寺　真方村にあり地頭仮屋の東の方凡六町
曹洞宗飯野長善寺の末寺にして開山環室和尚（遷化年月
伝ハらず）本尊釈迦如来立像開基由来詳かならず

鷹導山承和寺宝光院　細野村にあり地頭仮屋を
距ること申の方拾町余天台宗三原神徳院の末寺
にして本尊阿弥陀如来坐像由来記を按するに
人皇五十四代仁明天皇承和十四年丁卯の歳
慈覚大師唐土より帰朝の時薩州坊津
に着岸し上京の路次当山にて錫杖を執て
借宿し此寺を開基して承和寺と名付其後
天皇の叡聞に達して伽藍となし其時本堂に
本尊薬師如来脇侍釈迦弥陀三軀を安し日吉
山王を勧請して鎮守となし比叡山の末寺と為る

其後村上天皇の御宇性空上人雛守権現を安
置せるに及びこれ権現の別当職となり三峯
山宝光院承和寺といひしとなりおほく年月を
経て荒廃に及びしや顕慶上人（此代詳ならず）なりとその
再興してこれ中興となりしと云へり其後伊東
義祐三山小林を押領して永禄天正の間干戈
止むことなかりける時に当職を失ふといふ寛文
五年寺社官天台の一派寺院本末を改めし
に神徳院宥憲法印誤を伝へて彼寺の末を
るよし書を呈しこれより神酒精舎の末寺と甚る

慈覚大師唐土より携へ来りとて円鏡其面今に
当寺にあるて什宝とせり裏に整衣冠尊瞻視の
六字あつて

瀬戸尾権現　細野村にて鎮座地所係なり千寿
二里許り祭神寿島六所権現（例祭九月二十九日）勧請年
暦詳ならず此社は古往古性空上人霧の島山
中に在りし霊跡を探り五方に神社再建しける
時当社をもて中央と定むしよりこれを五方島山
中央権現といふ（性空当社再建の此縁にて権現を勧請すといふ今本社のたに息野権現社あり右は五部王子の社あり）
初め霧島山上の瀬戸尾といふ処に鎮座なりしが

田へ俗呼て瀬戸尾権現といふ（瀬戸尾ハ東山嶽西嶽の間にあり今瀬戸尾越といふ権現の旧社地あり）是亦山上の震火にて神社炎上し給ふにより今の所に遷宮あり（天永三年壬辰二月三日文暦元年甲午十二月二十六日震火大に発して神社寺宇焼亡すといふ遷宮何れの年次なるや其詳ならす次其後山上燃おこりて神社焼失せしハ享保元年甲申九月震火ありて砿石神社寺家を埋むといふ）志りしく岡原（小林邑の地名なり）の地なるをいふ仮に神殿を構へて安鎮し従ふ亦舊の地に遷宮せりとそ寺ハ當寺を瀬戸尾寺といふ（門小野寺ハ天台院流本山派山伏住職）

吉松郷内小野寺の住僧共まを謹る（によして日州大嵜熊山照信院の末寺なり元亀年中伊東氏源照に来り住せしか内小野寺住僧党甲相模修行云の功ありしにより松齢といふを号し瀬戸尾権現社の別当職を譲りて子孫其職を勤め瀬戸尾寺を兼住して今に至るといへり）

愛宕山十輪院圓岳寺　真幸村にあり地頭仮屋より未の方四町余天台宗南泉院の末寺にして開山亮厳僧正（南泉院二世）本尊地蔵菩薩（坐像伝教大師作のよしいひ伝ふ）初め愛宕山勝道寺といふて真言密宗の寺なりしを享保中宥盛法印（吉原氏御院住職）再興して亮海僧正をもて開山となし南泉院の末寺となしこれより二世と号す山中に愛宕社を安せり

山神祠　真幸村西原境木浦木北山中にあり地頭仮屋を距ること子方凡三里余祭神二座（大山祇命 猿田彦命）祭祀十一月中申日行司八重尾某也といふ所にして勧請年月詳ならす次

慶長十二年閏四月廿四日松齢公願書を納め給ひしかい

八重尾久重なるもの應永中さい〳〵に祈行
こゝろをつくしまゐらせしこと多く後小原氏小林を領する
に及ひて天文五年四月八重尾典次郎重任子小原久並木浦木
山寨給の證文を与ふ小原氏真幸院を松齢公に献し時に八重尾
兵部を召て
奉幸をといふ

粥餅田　北西方村西方村と呼ふ（北方村を土俗北）　橋谷原にありいはゆる八
真幸備道より地頭仮屋の西方弐里許り元亀三年
五月四日飯野木崎原の戦ひ伊東敗走し其一族
大将柚木崎丹後なる者の逃まて引退きしを松齢公
鞭を揚て追掛手自鎗をもて突伏給ひし所なり
真幸街道の舊跡今にありて木崎原を距ること弐里

或説に丹後兜を脱て爰に憩ひしに橋谷村の農夫
粥を持来りて丹後に与へ食しめたり附公追来り給ひし
ことなりて粥掛田といふといへり兜を立し石なりとて
今に伝りさるさ凡四尺囲弐丈四五尺許り兜石と名付く

須木

大年神社　須木村に鎮座地頭仮屋同村を距ること戍方
弐拾三町祭神一坐素盞鳴尊正祭九月二十九日勧請年記詳ならす
須木邑の惣鎮守として社司に河野某

誕生山真幸院世尊寺　須木村にあり地頭仮屋の子
方八町余真言宗大乗院の末寺にして開山勢傳和

尚 寛永二年乙丑七月廿七日遷化 本尊釋迦如来 坐像日州綾郡川中嶽の弥陀佛と同時に作るといふ

いにしへ 開基年月詳ならず 中興を静思法印といふ 寛文七年丁未八月廿五日遷化

二之宮祠

大年神社の卯の方卅町許りにて境内末神詳ならず 祠の右に荒嶽大明神あり

須木瀑布

須木村にあり 地頭仮屋より寅の方凡六町許り 其源は本邑の山中に出て綾川に流るなり 雌瀧雄瀧とて同し流に二ヶ所あり 壱町許りを隔つ 滝の寅卯の方岩上に観音の石像を安して岩観音といふ 是より岩に至りて西の方瀑布を眺望するなり

一 男滝の高さ凡三拾尋許りにして西より東に五節に分れ落 西岸聳へ其景尤も佳なり 見当の岩に赤松多く生茂りて一佳景といふ 滝の深さ三拾尋といひ伝ふれとも測り難く量るへきもなし 雌滝の高さ僅に廿間許り 岩観音よりはるかに

龍鳳山自得院一麟寺

須木村にあり 地頭仮屋の酉の方三町余 曹洞宗飯野長善寺の末寺なり 開山久翁和尚 九月十一日遷化 年月を伝へす 本尊地蔵菩薩 立像 長弐尺 京都仏師三条通 井上左京進作

飯野

飯野古城

原田村にあり地頭仮屋より同村にあり亥の方凡三町許り初めの北原氏真幸院の領主たりし時居城なり永禄七年甲子十一月十七日松齢公此城に居住し給ふ本丸二之丸三之丸共に山殊に堀深く嶮しく要害の地なりしと見へたり

幻生寺

原田村にあり地頭仮屋の亥の方凡三町許り曹洞宗長善寺の末にして開山常室梵庸和尚遷化年月詳ならず本尊文殊菩薩坐像涼山幻生大禅定門松齢公御子鶴寿丸君天正四年丙子十一月二十二日卒去の菩提寺なり

一之宮香取神社

今西村にあり地頭仮屋を距ること申の方弐拾弐町余祭神一坐祭礼例年二月初卯九月九日勧請の来由詳ならず此社は人皇三十九代天智帝白鳳七年丁卯二月大職冠鎌足公の命によりて勧請といへり松齢公崇敬し給ひしといへり

峯八幡

原田村に鎮座地頭仮屋より辰の方凡拾四町余島津犬太郎久藤德満殊を去て落ちこさ給ひしに六乃所にて落属し自殺の地なり其霊を崇め祭ると云ふ伝ふ

春日山不動寺愛染院

原田村にあって地頭仮屋の子の方拾町余真言宗大乗院の末にして開山頼源法師遷化年月

傳ハらく本尊不動明王 立像 開基来由傳ふるに
堯辛山長善寺　原田村にあり地頭陣屋の寅乃七町余
曹洞宗能州諸嶽山總持寺の末にして實峯流の
小本寺なり開山明窓妙光和尚 總持寺五院如意庵開山實峯良秀和尚の法嗣なり
應永二十二年六月二十二日示寂行業別に録せしものあるゆへこゝに略しぬ　本尊彌勒菩薩 坐像 古佛
當寺初の真幸院領主北原周防守兼益出水観音に
參詣し事上江村を過ぐる時今の郡市に庵室を結び
住居せし僧明窓に立寄事に對面ありて歎じ
明窓と名宗をこそもの善知識なるを欽ふこれ人は秋
風

明窓の返歌
西東南の風にまかせきて北ふくてふきそめし明窓
といひし其因縁によって師檀の誓約をなし明窓を
拓請し七堂伽藍を創建し長善寺と号し田
百町を附次郎應永三年丙子の歳寺号を免ありて
門風大に隆に道徳日に播し門末の寺院七五拾余
箇寺に及び總持禪寺輪住寺の其一なり又當寺
も總持の定規になぞらへ開山捉の如く示寂以後南
天流 南天ハ塔中清涼院の開山僧　義芳流 義芳ハ吉田昌明寺開山僧　璣舜
流 璣舜ハ加久藤温泉寺の開山僧　大鏡流 大鏡ハ高岡大翁寺開山僧　梵芳流 梵芳ハ塔中宗

（江院定山僧）五流の門中より一回輪番の寺となりしに
永禄中北原氏にて当村を除ひ寺も廃れりかりし
しを松齢公田百石を寄附して再興し給ふ其後
細川幽斎殿下の命を奉して薩隅日三州の寺社
領を毀破せられ当村にも及ひ此寺領乏しくなりて
獨住と定め文禄元年壬辰十月喜雲全慶和尚を
以て住持となせり又寛永以来総持の輪番を頒肥
長持寺に譲るといふ（長持寺ハ長崎三世義芳充訓和尚開基にて其時当寺の末なり）慶
長十七年壬子九月十九日又元禄三年庚午十月六日
の夜火災ありて寺庭什物共に灰燼となり旧記を

失ふといへり門脇に月照山宗江院あり開山梵芳永
紹和尚初め竜昌院といふ湖月宗江大禅定門
の霊牌を安置するよりて院号を改む

白鳥山権現　本永村（正原村を土佐にて本永村と唱ふ）に鎮座　地頭假
屋の手前六町計里拾九町余多宝神一座（日本武尊 祭二月初酉六月二十八日）
（九月十九日）當社縁記を按するに来秋の性空霧島山の霊
窟を巡視するに大なる池あり池の側に居して
法華経を読誦すと忽然として老翁来り我は
これ日本武尊なり白鳥と化して久しく此峯
に住む誦経の声に感して現するといへり

性空此由縁により社を創建し白鳥権現と勧請し正観音をもその本地として満足寺を建立し護持の精舎となす性空上人誦経所に自作の六観音を安置して池の名を六観音池と名付く又此池といふ擬あるに六観音ハ書写山六所権現本地なる由し日本武尊崩し給ひ伊勢の国能褒野に葬り奉りしに尊白鳥に化し倭国に飛去て琴弾原に停まり給ひ又河内国に至り舊市邑に留り給ふよりて其三所に各陵を造りて白鳥の陵と名をつけ置けりされど遂に天上に翔り飛去り給ふと日本書紀にもみえたり

拝殿に日本武尊の四字額を掲く京都智積院運敞僧正書当社ハ軍神なるゆへいにしへより人の崇敬余社に異なりしかゆ松齢公本邑に出陣し給ふ時軍を出し給ふさいと志ありし常に此神に祈り給ふゆへに太刀鎧具など寄進の

兵器多くし又慶長五年正月廿一日慈眼公田地壱百四拾余石を寄附して神領となし永世丁役を除かしめ給ふさいまし萬年日州庄内の役に公の誓願あるによりてなり慶長六年土木の功を起し宝殿を再興し同十年十一月功畢るといふ未由寛文七年十二月住僧亮仁記を所の縁記にくはしきゆへさらに略す

白鳥山金剛寿院満足寺　白鳥神社別当なり下に同し真言宗大宗院の末にして開山性空上人書写山勧善薩像坐白鳥権現を勧請ありしに及ひて創建を初め天台の梵刹なりしか星霜を経て荒廃し神社となり

なりしが應永中阿闍梨光尊（應永十五年戊子十月九日示寂）寺を
重建し真言密宗となりて其後大宗院の末となりて当社
の職を除く忌むしゆへに阿梨耶山花山寺とて一ヶ菩提
寺となし（彦山寺ハ当寺の末にして加久藤川北村にあり）當寺を現在寺といふ

白鳥霊湯　寺を距る事五六町湯勢多く硫礬あり
硫礦気を含みて積年を去り瘡毒を除き功能著る
しけれとも浴室なく人家なく便利ならざる由へ入浴
のものなし

源道利

跡たえし神の栫みに出る湯の煙も霧と岸のまつか枝

六観音池　白鳥権現社の巳午の方一里三拾町ばかりにあり
周廻一里余ありといふ凡て白鳥権現湯の池四十八池の一箇な
りいにしへ釈性空此の池のほとりにおゐて法華経を読
誦しけるに奇瑞ありければ手づから六観音の像を彫
刻してこゝに安置ありしとぞ（今池辺に小仏閣ありて六観音の像を安置す其の古跡といふ）
されによりて六観音池と呼び来るといふ

出水観音　吉松村にあり地頭仮屋より午の方一里半余ありの
地清泉流れ出る故に土人出水をもて地名に呼び仏閣の辺
に仏閣ありて正観音（古作坐像長一尺三寸 作者詳ならず）を安置せり里俗伝
へいふ往古伊東氏尊信の菩薩にしてこゝに勧請ありし

しと其后唐詳ならす応永中北原範兼出水観音に
ゆつりてそのさいとかく移りまいは安置のいきさしまさとつかうまつり
定まり

大戸諏方社　大明司村にあり地頭仮屋の西なる式所
余為神事に同し（例祭七月二十七日）慈眼公大明司村にて誕生
し給ひしより一産土神と崇敬し給ひ祭田を寄進し
例祭には公の社参あり流鏑馬を張行せられしと
いふ神主黒木阿波代々同村鹿神力協なりけはし
旧記にみへたり今は黒木某祭祀を司とる大当寺新
城山大明寺延寿院真言宗大乗院の末寺にして開山
盛憲法印永禄七年松齢公建立し給ひしにより鹿児島大
乗院坊中に寺を移したと

稲荷山西方寺保寿院　原田村にあり地頭仮屋の東なる三町
許り真言宗大乗院の末寺にして開山真照法印（天化年月詳ならす）
本尊阿弥陀如来秘仏元和年中開基にして本尊弥陀の
像は松齢公御主人（西郷相良氏の女伊佐川清御といふ）取代とをして安置し
給ひ田地七石を寄附して香華の用にあてたまふといふ

木崎原　池島村にありしいふし往昔にて今に旧跡存
せり飯野古城址を距ること申の方壱里余元亀三年
壬申五月四日暁天伊東新次郎祐信同氏加賀守等

軍兵を従へ諸将を引率して飯野楠ヶ平に陳し松
齢公の加久藤城を襲ふ城兵樺山常陸介浄慶
父子防き戦ひ共に討死す公急に飯野城を発し身
加久藤城に至らんとする二八坂にかゝり給ふ時に伊東氏
軍兵を率ひて木の原に屯す公諸軍に下知しさいに
会し伊東氏を撃伊東敗亡甚及負了木崎原の
地形今多くハ田地となりて其将の頸塚加賀守床机の
場なと今に残りてあり

三角田　木崎原にあり田の形三角なる由へ名付くと見え
なり松齢公元亀の戦ひ敵の大将伊東新次郎
祐信と鎗を合せ祐信を突伏給ふ所なり三角田西方拾間許
りに一箇の自然石あり公祐信を討給ひし旗木の石
に脇を掛休ミ給ひしといふ側に六地蔵塔あり

太刀洗川　三角田の東脇に流る小溝なり木崎原の
合戦済りし後軍兵ともの太刀を此水にて洗ひし
となり由へに名となれり平日水なし夏四五月流水
あり

二八坂　大明司村にあり飯野城の申酉方拾九町加久藤
城に通ふ路にして僅なる小坂をいふ松齢公此所に出馬
し給ひ木崎原の方伊東勢の屯を見給ひし所なり

田原陣　末永村ニ有り依野埜の手前壱里壱町余伊東加賀守以下の陣所楠ヶ平といふも同所なり今ニ其陣跡存す

狗留孫三所権現　大河平村山中に鎮座地頭仮屋を距ること丑寅の方三里余肥後州求麻境なり祭る神三座　能々三所権現一説ニ林幕山祇命相殿の神詳ならす次雷神大山祇神を霊龍といふ三神を祭りし三所と云ふかの本田親盈が著せる神社考ニ云く古より神代巻一書云林幕山足日林幕社云鯱耶磨云々今の権現社をいへるに酒佗某師記書院三像を安置せしとも本地とハ云へるなり之社殿ニ鰐口を掛其銘ニ日奉施入狗留孫佛能寄三所権現鰐口大旦那伴貴萬穀白寛正四年癸未六月十五日主尊海并勧進十方旦那と記せり例祭ニ月酉日九月二十九日　勧請年月詳ならす次当山ハ大河平村の人家を距ることと三里許り山路嶮峻にして登攀するもの或ハ匍匐し或ハ岩根をとめ樹枝ニすかりてやうやう巓ニ登ることと二里ほどにて大しめ縄の鳥居のもとに至る是より谷ニくたること十余町渓水の流あり独木橋をわたりて復た巓ニのほること初のことくにして寺見峠といふにいたる此所より権現社ニいたり當寺堂ニ及ふる迄の坂をくたり鉛を登ること幾ともなく高山静ニに鉛深くして一鳥も鳴かす仙窟の靈梯ニして実ニ塵外の浄境なり社殿ニいたりて東の方一町余ニ自然の二巨石あり深谷中より屹立し高く空中ニ聳ゆ雲號して卒都婆石といふ　一石高さ十五尋余囲七尺余卒都婆石と呼ふ一石高さ十尋余にして囲ハ相同し欽吉石と呼ふ縁起ニ日石卒都婆をも古物為源佛竜王の

請に因て建立へるなり。所に山を拘留孫と名付く。按に千光国師栄上僧正栄
西入宋し育王山に於て観音大士の指示を蒙むり帰朝の後此山に来り卒
都婆をたてし山の巓に一社を建立し熊野権現を勧請せられしは
此の山に詣するものゝ無始の罪障を消滅し終に菩提の果を証せ
しめむためなりとていひしへり。六十六部納経の所なりといふ。按するに当社の
祭神本田数盈か説に淑起にいふところと違へりいかんや。唐蔵院主を
にして唯本地の三仏像を安し正体中に掛る鰐口の銘ともをもて是
是非を辨しかたし

神社の左方より卒都婆石のもとに至り右の方に出
出る道を清勝といふ。弘法の修行の地なるといひ伝ふ。これにいたるを
もて論ことさら道程三町程にて不動の石窟瞻挟石観音
石塔生岩屋岩の奥院なりといふ。石窟に詣まり危岩
諸々樹枝を攀ち藤蘿に縋りて至る難所なり。社司を
出石某といふ。社僧より西凡十二町ほどり山上り精舎拘留

孫山多宝院端山寺といふ真言宗大覚院の末寺にして
権現の別当寺なり。開山千光国師 栄上僧正諱栄西備中州吉備津の人賀陽
氏なり。薩州の刺史貞政の曾孫なり。建保三年乙亥七月五日示寂寿七十五
本尊薬師観音開基年暦詳ならず 按するに端山寺
祇の神号よりおこる寺号にして俗に端山の字を誤りて用ひ
しなるんかと思ふまゝに記しぬ 次 の縁八葉山

金毘羅祠　拘留孫権現社の巳午の方八町余山上にあ
り世に天狗の嶽といふ島居より東の方三町ばかりにして
社頭に至る樹木欝茂岩石側立たり。中興を立て参詣
の人を禁ふ。そもそも女人参詣を禁ふて 社僧に云いはしへ(?)栄上僧正石卒都婆を
おまして山中に入此の岩に至りて修行しけるに一人の
老翁来りて僧正に対し志願の法功なるを感し石卒都婆

を指示して曰汝等の破却せしむる上ハかしこの山巓に堂塔を勅
請し伽藍を建立すへしかくて汝我か言を忘るゝなかれ我ハ讃
州金毘羅の示現なりと云畢て、夢覚め僧ら奇異のおもひを
なしをさいとハ山上にて一の権現を勧請し寺をも建立して深く
此の所に金毘羅社を
建られたりといふ

加久藤

加久藤古城　小田村　中福良村なり今里俗小田村と呼ふ町にあり地頭仮屋同村上にあり
より子方三町許り久藤城と名付く永禄中松齢公
こゝに在城し給ふ元亀三年三月五日妙見及ひ天満神の
三座を勧請して城の守護神と称せらる系十一月ニハ加久藤の旧名
徳満といひしを忠公久藤城ニおほしめし給ひし名あり久藤に加の字を
加へ加久藤と改めさせ給ふよしいひ伝ふ
社の前に大いなる松樹あり根周り二丈九尺七寸　郷君慈眼公舊城

中にして御誕生し給ひし御房を祀り御裁す所といひ伝ふ
社の後方に鍋掛口といふ所あり険にして廻坂ある
元亀三年五月四日伊東新次郎祐信同氏加賀守以
下軍勢を率ひ鍋掛口に来りて襲ひんとせし城兵
梓山常陸坊浄慶父子出て防ぎ戦ひ遂に敗走す
敵兵退いて飯野本地原に至る

光林山吉祥院不動寺　小田村にあり地頭仮屋の午方
壱町余真言宗大乗院の末寺にして開山光林法印
遷化年月伝はらす次本尊不動明王立像長壱尺弐寸興教大師作のよしいひ伝ふ開基年月
詳ならす次郷士北原氏の祈願寺にて徳満城下にあり

しを今の地ニ移せしといふ松齢公の御子凉山幻生大禅
定門の霊骨を出せ

瑞亀山徳泉寺　小田村ニ有り地沢傍屋より西の方凡三町
橋口にあり曹洞宗飯野長善寺の末寺にして開山様岸
和尚長善寺四世　本尊正観音像坐開基年月伝らす初め北原
の菩提寺ニて伝満傑中ニありしに北原没落してあ
後今の地に移せしといふ

二之宮神社　栗下村ニ鎮座地沢傍屋より東の方凡弐町許
所祭る神一座仲哀天皇御祭九月十日勧請年記詳ならす初め
二之宮現王といふ小社なりしに慈眼公加久藤城ニ
誕生し給ひ生土神なるゆへ松齢公崇敬厚く大般若経且十
六善神の画を寄附し給ふ慈眼公の時ニ至りて益崇
いよいよ厚く二之宮大明神と号し給ひ慶長七年十二月
十四日神領三拾石を寄附し同十四年九月にも社殿を
造立して社家旧日ニ倍せり黒木源之丞なるもの
をもて祠官となし給ひ本邑の惣鎮守なり

高蓮山福性院二之宮寺　二之宮社の傍ニ有り真言
宗大乗院の末寺にして開山果融法印承応二年癸巳七月十八日遷化
本尊十一面観音像立果融ハ初め鹿児島文珠院の
住僧なりしを慈眼公病痾の時ニ於て当寺を建てすへたり

居らしめ祈念のたえさらしむ田地拾石を賜ふ即寛
永十四年丁丑の歳なり天和三年癸亥類火にて記
録焼けり

馬関田

天満大聖威徳天神　川北村に鎮座地頭佐倉月村と云
るなりと云当所四所の神三座（北野天神 宰府天神 威徳天神 正応十月十日）勧請す
月詳ならず次いむかし道正某なるもの京師より当下り
勧請せしといふ伝子孫（佐野村道正三左衛門を長子孫なるよしあこかめ 家記ありしか今にありてことに失なるといふ）
松齢公佐野城におゐて志あらしむる時崇敬し後に正宗公
八幡宮を造営せらる万治年中火災にかかり由緒記を
失ひて詳ならず次本邑の惣鎮守なり

花京山宮楽寺威徳院　天満宮の右脇にあり真言宗大
字院の末寺にして開山光蓮法印（遷化年月伝ならず）本尊十一面観
音像（坐）開基詳ならず次

東福城趾　川北村にあり地頭佐倉の塚なり亀之城
鶴ヶ城多く福城なといふて三の丸の曲輪あり北原右馬督
の居城なりしといふ

玉城山大圓寺　川北村にあり威徳院の右なり地頭佐
倉より来る也四所曹洞宗領聖長善寺の末寺にして
開山大鏡光鑑和尚（長善寺五世応永十二年乙酉九月十七日遷化）本尊釋迦如来

坐像開基年月由来詳ならず須馬関田右馬留の菩提寺な
るよしや石塔及ひ位牌等を安す瑚庵玄珊大禅定門と記
せり

高牟禮六社権現　裏村ニ鎮座地頭仮屋の未乃弐拾
町余祭神四座（天児屋根命天照太神斎主命武甕槌命正祭九月二十日）社記曰人皇三十九代
天智天皇御宇七年大中臣氏鎌足大織冠の命を
蒙り勧請し三之宮四社大明神と號を奉る真
幸院一之宮は斎主命の垂跡下総国香取
大明神を飯野に崇し二之宮ハ武甕槌命の
垂跡常陸国鹿島大明神を加久藤に崇し三之宮
天児屋根命の垂跡大和国春日大明神を馬関田に
崇しと云ふなり当社の本地ハ正観音とし給り
寶徳三年七月初八日大檀主選岩叟と記せる板
世仏像を加へ奉りて高牟禮六社権現と改號せし
なりや高牟禮ハ地名と云ふなり社司黒木某

澤原野池　裏村ニ有り飯盛嶽（加久藤長江浦村乃内）の裾ニして
澤原野といふ牧野中ニ地頭仮屋より午方壱里拾八
町池の周り壱里ニ亘り深さ不知蒲多し寄島
有地四十八池の中一なりといへり

吉田

天満宮　多流村[鶴田村を星佐多流村と唱ふ]に孩庄地頭仮屋[内堂村]にありを距
ること寅卯の方拾町余愛神北西に同し[祭二月卯日打植祭六月廿九日豊穣祭十]
[明廿]勧請年記詳ならすに神の当社の後山の半腹にあり
しをここに延喜十月廿日に一華表の外に神輿を守
りて神楽を奏を演下りといふ邦君貫明公松齢公厚く
崇敬し給ひ天正十年九月廿五日貫明公和歌十首
を献して宝殿に納め給ふ又寛永十六年二月二十五日
寛陽公連歌を興行して奉納し給ふ元禄十三年二月
三日社殿炎上の時旧記を失ひ由来委しからす吉田の惣
鎮守にて社司を押領司某か当社を観音寺といへり

南方山福智院観音寺　昌明寺村にあり地頭仮屋より
亥子方六町許り真言宗大乗院の末にして開山光
恩法印[正保年月傳はらす]本尊十一面観音像[坐]寛永九年
創建にして天満宮の別当職となれり

寶涌山昌明寺　昌明寺村にあり地頭仮屋より亥子方八
町余曹洞宗飯野長善寺の末にして開山義芳
光訓和尚[長善寺三世]本尊阿弥陀如来[坐像]開基年月
詳ならす

吉田温泉　昌明寺村にあり地頭仮屋の子方拾七町
許り山王山の林麓に涌出し延年月傳はらす湯勢

浴く気を消滅なし味ハ醎く渋味を帯び明礬の
気を含みたり浴する時ハ功能多くして第一瘡を癒し
肺気を治して血積を去り其外諸病に益あるよし
神のちかひし

高原

狭野大権現

蒲生田村狭野に鎮座地頭佐土原高原村
おり今従ふを距るさいと云方凡七里於所謂本社宗
幣帯をいふ
神六座 瓊々杵尊 彦火々出見尊 葺不合尊 木花開耶姫 豊玉姫 玉依姫 例祭九月二十九日 霧島六所
権現といふ勧請の年暦を伝へず抑狭野の地ハ上古
神武天皇降誕の霊蹟なるによりて当社創建ありしと
いふなりきと名辞なるさいと知るへし次天皇ハ鸕鷀
草葺不合尊第四の皇子にして狭野の地に生れ給ひ
よりて幼字を狭野尊と称しまつる神代巻一
書曰先生五瀬命次稲飯命次三毛入野命次
狭野尊亦號神日本磐余彦尊所稱狭野者是
年少時號也云々今本社の左に御子ありて天皇
の御霊をまつり社説に云祠ハ当社の末神ハ地神
第三代天津彦火瓊々杵尊一座にして外に五座
の神霊を合祀し又神武天皇の神霊をまつり
人皇第五代孝昭帝の時勧請といふ又三十代欽明

帝の時慶胤上人といふものありて霧島山の神社を建立せしといふ三代實録云天安二年冬十月廿二日己酉授日向国従五位上霧島神従四位下云々延喜式神名帳ニ日向国諸縣郡一坐小霧島神社と載られたるもの是なるへし其もとの一坐といふは鎮座の久しきをしるへき也　按するに社地は神武天皇降誕の地なれは初め天皇の神霊を崇奉りしなるへきを社説のいふところ天皇の神霊は相殿ニ祭まつることなくまた今上天皇と本社ニ祭ら此本社のたふとみ給ひて社をおこにまつることなるへしあるはやまと当社の創建ある久しく山上震火の災ありて仮り古跡を移せしの数ありて長き年中に至りて神の御住し今の地に遷座ましといへともなほたかく火災に罹りて神宝及ひ縁起宣命等もしることなく綸旨は由縁詳ならすしかれともその外に秋性空当山にありて神社寺院を再建せしかはいかにも始め星霜を数人古跡を換りしことを詳ならするさいと知るへかりきも次今の社の辰巳の方に松町許り上古神社の所ありし

跡なりとてある土俗是を擬説か　天皇襲野に降誕ありし十五歳宮都と呼ふにして太子に立ち給ひ始日向国高千穂宮に都し給ふ今の宮崎郡の内ニ北方村は皇都の遺跡なりといひ伝へて神武天皇の社とてありといふ　御年四十五歳の時西の宮より起て東征し給ひ長髄彦か乱をおさめ天下を治めて大和国橿原ニ都し給ふといふ

西の社　彦火々出見尊鸕鷀葺命を祭る本社の右にあり　四所宮　本社の前右にあり白山山神水天山王を祭る　本地堂　四所宮の右にあり千手観音の像を安置　社司押領司某が当寺を神供所といふ

霧島山華林寺神徳院　権現社鳥居の左にあり

天台宗武州東叡山の末寺にして　栲野大権現の於

当所なり開山性空上人中興開山宥淳法印本尊不動
明王阿彌陀如来当寺開基の事詳ならず次村上
帝の時性空上人当時を建立して権現社の外当寺
となすといふなり又山上震火の災にかゝりて神社寺宇
ことごとく焼亡し什宝旧記等皆亡ぶ依て志ハしく
転移しけるに慶長年中に至り昔日のごとく狭野
の池ノ神社建立ありて当寺も再興ありしといふ
霧島東御在所権現　蒲牟田村に鎮座地狭依名を
詳ならず己年乃立置三所余社神二座　伊弉諾尊伊弉冊尊　例祭九月九日
十一月初丙日　勧請年暦詳ならず次是を東霧島の奥の立

といふ傳ふ此所神代の旧跡二神伊弉諾伊弉冊現坐の霊地な
るよりも勧請ありしとぞ　今相殿ハ天照太神忍穂耳尊瓊々杵尊彦火々出見尊
葺不合尊磐余彦尊六座ノ神霊ヲ崇メ祭ル後ニ會祭セシト
見へタリ又本社ノ左右ニ両社ヲ安ス左ハ白山明神右ノ社ハ性空
上人ノ侍童乙若丸ニ霊を祭りといふされハ又性空再興ノ
時よりのことくにハあらすなるらん次第ノこと詳ならねった
し或曰日向ハ神代伊弉諾尊の旧都なれハ今も都の城
高城なといへる地名残りてかくいへり是ツノ由なりと又曰神代高天原
といへるハ今ノ高原なりと推定るも日向ハ神代の旧都なれハこゝに疑
いと遺名を見らに何ツ都ノ城高城等の遺名のこる限らん
や嘗て高原の地勢をしるに原野高平にして四顧曠遠たり
東ハ高崎と兼南ハ高千穂の峯に至り西北ハ小林野尻に取
続き其餘の郷邑諸峯林嶽ことごとく双眸のうちに在さり
水清らに土肥く宜上の霊地なることに神代の旧跡といふ宜
なりされハ高原といふ天原の略語にして其の神止住りし所を
いふなるべしといふ也略語転語は本邦の例少なから
ぬ或説ニ高天原ハ上天をいふ虚空のことなりといへり是皆
理を推して論せるなり理ハ窮めなしと跡を貴としとく

ありしとも古来曠遠かりしを
書記散亡し然まさその詳かならさるとありかとしいみしへ
より霊蹤ことともおほしといへとも山上震火の災ありした
よりて震火の事西御在所権現の下ふ詳かなりことごとく其傳を失ふ由
り社司押領司某別當寺を錫杖院といふ

祓川　本社の外乃八町ばかり二王門の外數十歩
にありしいみし、二神天降ましし時八百萬の神等は
の川み集て御祓しましとも傳ふ今み至るのも
の此川水みて垢離をとるといふ

霧島山華林寺錫杖院　権現社の左みあり眞言
宗大乗院の末寺みして東御在所権現の別當職

なり開山性空上人中興開山圓政法印本尊千手観音坐像長二尺
余大佛師左近法眼作　當寺ハ村上帝康保三年釋性空創建ありし所みし
て天台宗なりしみ震火の災み罹りて寺屋廢み及ふも
の數百歳由緒記み云七十四代鳥羽院の時宇天永三年壬辰二月三日八十六代四條院の時宇文暦元年甲午十二月二十八日
霧島山震火大いに発りて神社寺屋ことごとく焼亡すと云々　文明十八年丙午の歳み至り
邦君忠昌公の時密宗の徒圓政法印をして當寺を中
興せしみ寺務を命せられしより眞言宗となりて今に
大乗院の末寺となれり

大黒天　本寺の西数十歩み安置せる霊佛三面立像長一尺弐寸性空上人一刀三礼作みして應諾ことに著きゆゑありしといふ

二王門　本寺より卯の方八町許りにあり東寺島山

四字の額を掲く醐峯富位沙門有雅書と有り左右金剛力士立像長八尺作者詳かならすの像二体を安す

閼伽井　本寺の戌亥の方に有り往古性空上人の加持

なりといひ伝ふ此のみとし女人の此を従る時

ハ水かならす此涸竭すとして女人の近付く事を禁

す或ハ疫病を患ふるもの井の水を掬して之を服し当

其ハ必す治すといふ

御池　権現社を距ること辰巳の方八町許りにあり三原郡之城西邑に属す　周廻二里余俗云三里　碧水湛々として深さ測る

可らず此四方の岸壁のことくにして三丈余七ツの淵あり

松淵　艇瀬淵　王子淵　剱岩淵　刈萱淵　柳淵　護摩檀

といふ　護摩檀ハ康保三年中開山性空上人池の霊をおかさんとて石窟に籠りし護摩供を修行せし時に九頭の神ハ竜忽然として現ハれ一顆の宝珠を擎け来て上人修法の功を謝す上人の曰く汝ハ竜方便瑞応にして本地の直身みたまへと修法いよいよ確しきにしくみして千手大悲の妙相を現したまふ上人又手礼ありして受苦の衆生を救ひたまへと既に因て池底の淵さりしに大悲の像を安置し竜の捧けし宝珠をハ銅器に盛り石函に納めて檀上の仏に石窟中に蔵めまつるしかるを後震火災ありて時行の宝珠ハ池中に落入りしとてあし今に夏日旱する時ハ村民此の池に詣て甘雨を祈るに霊験あらさるはなしといふ

此も霧島権現御手洗四十八池の第一なりしとぞ又相距

ること十余町許りの西の方都に城の地に池ありて小池と

唱ふ是も又御手洗四十八池の一なり往古ハ陽池陰池と

いひしに今俗に小池御池と呼び傳ふ

霞権現　後川内村に鎮座す神詳ならず次本地は
馬頭観音なりといふ地頭仮屋の卯の方一里ばかり
の岡にして叢祠なし自然の巌石を拝して
権現と崇む勧請の年暦傳らずに扇を蓄ふ
ものいの岩を拝すときは冥助ありとて奉納するもの多
し石縫に小蛇あり参詣の者かの蛇を見るときは
神慮に叶ふとて殊に悦ぶといふ 土俗傳へいふ霧島権現の巌に五色の蛇あり
とき信人加の小蛇を見るも色を認るに人ごとにして處あらず
て五色の蛇といひ傳へしならん

高城

霞島六所権現　東霧島村に鎮座地頭仮屋 村にあり 仮屋ニ高城
高城村は総満坊村の枝なし を距ること戌方弐里許松町余なる神六座
後当権現 月にし 勧請の年暦詳ならず祭例祭は 二月中の酉日 九月二十九日十一月中の酉日
当社は高千穂峯を距ること東数里にあり因て
東霧島と號し邑をたまきて志ゆと唱ふされど東の
字あれまと訓より略してたまと呼ぶといふ本社の左
に乙若の社 性空上人の侍童なりといふ邑を護法善神と崇む 伽藍石 高九尺余廻り二丈六尺余
鶴か石といふ あり右に白山の社あり社後より石階を下れば
み左右善神あり又一万社十万社あり 共に祭神詳ならず 石階
を下る所許にして鳥居あり右に神石あり 神石の事後に記せり

本社より南九町余にして八幡之安座の所なり権現
の跡所なり正月にハ神輿を渡て神幸の儀を迎
ふ所に至る浜下りといふ
十握剱ハ　剱靶紫銅鋳物後人の寄進
せしとみえたり其名不傳
常居る御剱にして当社神秘の霊宝なり
深く本社の内に鎮め奉る当社の正體ハ六の居剱に
して彼に六座の神霊を勧請し崇め奉るなりも
釈性空霧島山中に入神社を再興し寺宇を創建せしといへとも以前
ハいかいたりしやんしつるおもしろし性空再興の時よりはじめて六社の
神霊を分ちまつるなるらんか　上古より奇瑞霊証多しといふ志るし
まことに山上震火　震火の事西御在所様記の下に詳かなり　ありて志ばしば火災あり

罷りて詳ならずと傳へたり社司吉松某が当寺を
勧請院といふ神石ハ本社の辰巳の方数十歩　故有谷といふ小池
中に奇石あり俗に魔石と呼ひ又裂破石といふ俗に称せ
ば石いみしく魔魅にして志ばしば害をなす是に因て
霧島の神十握の劔を把て斬て三段となさ給ひ
その一段ハ雷となりて飛去り又二段ハ此の所に留まり
とめくく神となれりといふ神代巻一書曰伊奘諾尊
抜剣斬軻遇突智為三段其一段是為雷神一段是
為大山祇神一段是為高龗又曰斬軻遇突智時其
血激越染於天八十河中所在五百箇磐石而因化成神

是ハ曰般若裂神 云云今此神石といふものをとりたるに高四尺
余の亀石斬られて三段となれるの跡ありしを一段ハ人え得られて
里俗伝へて日向宮崎郡の内にありといふ志りきとし所在定かならすに当勅
詔院住僧竜意法印か筆記に祁石のことを書たり 云享保七年壬寅
四月十六日寺僧と抹来也国の行者常州の浄観といふものにきたりての行
者語りて云先年自祁川郡上町野里に一奇石あり土人の説にむかし
霧島の東霧島山より飛来たる石なりといへりその石を見るに大石を二ツ
引裂たる一片石なりさしわたし五尺へたるりと云と
神代の良縁にかはらんハ豈斬のたるさの所用ならむや今里俗の伝ふるところの神書の説と符合すれハさ
しさものかへ因て伝せたるなりといふ

東霧島山金剛佛作寺勅詔院　権現社の辰巳方
凡壱町許りありて村上帝應和三年癸亥の歳性空
上人当寺を開基して東霧島神社の別当寺となれり
初め天台宗にして金剛佛作寺の號ハ九十四代花園
帝の勅號なり勅字の額ハ元のつこ火災に焼失して後にまた今に二王門に金剛佛作寺といふ額を掲たり
慶長五年真言宗光明院乃瑜法印をしてこの
当寺の住職となしたるより改宗して大乗院の末寺
となれり

春日大明神　大井手村に鎮座地陜依屋をいへるさいと
卯方十二町余亀神四座 天児屋根命 鹿島大明神 香取大明神 天照姫神 木像を安し各古法をあひむ例祭九月九日十一月八日 当社ハ人皇六十二代村上天皇の御宇
天徳二年日州三俣院高城村東山の林井に勧請し注ふ

神山垂跡の地なるよしにてあり 以上社司東原氏古傳に據る 神社考

云春日社ハ瓊々杵尊高千穂嶽降臨の時五部の

神の一也三俣院庄内に降り立柱と云く神籬を

保ち守護し所にて其所垂跡根元の地なるよしと云ゝ

是によりて天治二年神託ありて勧請ありしなるらん

東山ハ高千穂峯の東に行くて凡五里 行程七里 高千穂

峯に對して東山といへるか今ハ春日山といふ大杉

おほくありしか安永七戊戌七月十日大風にて多

吹たふし倒木となりて大樹を除て十余株存せり同殿

に佛像四躰を安置して本地とぞ 薬師地蔵釈迦文殊なり当寺にて創せしと

にて佛像を安置し来るものならん余つら〳〵考ふるにそは神仏混淆の像

なりけんしに佛像当国に下向ありし時日向赤江の在にて祀りしものを奉

りて春日大明神と勧請せるに明暦二年二月所記の旧記にも見えたり

社司東原直記にいふ当山ハ春日山三摩地院東竜寺 真言宗 大乗院末寺 といふ開基年歴詳ならす開山傳燈阿闍梨僧覚 十二月二日

延化年号に行状傳はらす 初めハ天台宗なりしといへ傳ふ改宗の年詳ならす

なりしに宮殿に掛る所鏡銘至徳元年甲子十一月九七日

施入日向国三俣院北方春日社鋳治壱口大檀那沙弥

正覚大願主金剛佛子宥存云ゝ宥存ハ当寺の住僧

なるや古傳を失し世代も詳ならす是も又考ふへし

亀石山石山寺 石山村にあり地蔵佛像を祀るといふ申酉

なり武星曹洞宗にして福昌寺末なり開山実庵融系
和尚なり 薩州浜松正光寺開山洞岩禅師の法嗣 永享三年十一月十三日入寂 本尊釈迦の木像坐
振ハ初め実庵和尚此地に来り山の中腹に庵を結ぶ石山
の勝景を愛で問ふ人に答て曰我無情道楽門を修せ
海径ひさしとあらまほしといふ勝景岩に草庵を建立三十八年
経し亀石山福聚寺と名付く即応永六己卯年
なり千手観音の立像を安置し当寺の本尊とす
日羅の作なり祈り求むれば不思議に諸人施す
邦君琴月公寛陽公恭清公参詣し信仰し給ふと
なりといへり安永四年住持光竜庵にて石山寺と

改むる 光竜云初め石山寺といふ寺ありしも星霜を経て荒廃し応永中実庵和尚再興して福聚寺と改むといへり明和七年
光作記録の記福聚寺ハ応永六年歳主開山実庵云今記録の
記有様此山中に亀石あり左に亀石を以て山名とす根拠なり
開山此縁石あらんまで石山寺と号とされるを詳
らかなりいとはまらんは

高松山功徳院高福寺 穂満坊村にあり地蔵境内を
鎮地となす訓附浄り時宗相州藤沢山の末なり
して開山浦阿弥陀仏本尊は阿弥陀如来 立像長三尺三寸永禄九年
十二月吉日大仏師法眼康秀と厨子背に記せり 脇侍勢至観音 畠山治部太輔開基に
して天月と傳へ初め松峯山と称すといふ中興ハ
名く阿浦といふ

瑞雲山吉祥寺 穂満坊村にあり地蔵傍より

西の方弐町余臨済宗志布志大慈寺の末にして
開山大詠和尚 応化年月伝へらず 本尊正観音 坐像 開基年月
詳ならず 中興月桂和尚といふ

河添里

武里 有多村にある地頭仮屋を距ること六丁斗西方
弐里弐拾三町余 都城川この流をかみして日向
志川の頭なる所流四拾間余横せばく水勢緩く
西岸大石累々として滑なる其景甚清麗の地
なる里民かくすいの裏といふ

高嵜

宇賀大明神 前田村なる諸麻地頭仮屋 同村にあり 距
ること甲方弐町余 神体一座 倉稲魂命 例祭九月二十八日 勧請年月
詳ならず 此地は先に原郷の内五箇村 前田村 朝倉村 縄瀬村 横瀬村 大字田村 前田村の内ご宇村 を分ちて新に外城となしたる高嵜
郷と呼ぶ 貞享二年丑十一月六日当社をもて本邑
の総鎮守となりしは社司押領司氏

竜虎山明王寺幸樹院 前田村なる地頭仮屋
の東隣なる真言宗大乗院の末にして開山盛住法
印 云楊枝院住僧遷化 年月を伝へず 本尊不動明王 立像 初め曹洞
宗の寺なりしを高嵜郷と並に居へく密宗と
なし本邑の祈願寺とす

朝倉山海蔵寺　前田村ありて地頭仮屋の未申弐町
にあり曹洞宗仮地玄善寺の末寺にして開基
年月詳ならず開山耕山慈舜和尚遷化年月詳ならず次
本尊阿弥陀如来偽之本邑の菩提寺なり

薩藩名勝志巻之十九

諸県郡

薩藩名勝志巻之十九目録

諸縣郡

粟野神社　粟野寺
龍福寺　高福寺
去川　香積寺　月知梅
本永寺　善哉坊
法華嶽寺　琵琶　身投嶽
腰掛松　式部谷
木鶉　愛染川
車返　氷室山　荼毘森　潮妙見社　大日寺

宇佐八幡宮
天正寺
悟性寺
郡山寺
川口番所
法音寺
西光寺
佛像寺

穆佐城趾 御誕生杉
若宮八幡宮
圖師大明神
龍泉寺
三宮神社
綾光寺
傳德寺

高岡

粟野神社 高濱村に鎮座地頭假屋内山村を距ること辰巳方凡拾八町祭神八座大己貴命都味齒八重事代主神下照姫命味鉏高彦根命少彦名命高照光姫命御井神健名方神祭六月廿七日十月初午日勸請年月詳ならさるを應永中義天公穆佐高城におはしませし時崇敬ありて穆佐院三百町の崇廟と崇め神領七町を寄附し給ふ高濱村ハ穆佐院の地にして慶長五年本邑に属す天正十五年京勢乱入の時乱妨又文禄初年寺社毀破勘落の時神領を没せらる華表に粟野大明神五字の額を掲く神号の由縁さたかならすむかし粟の穂にのりて此川に流れあひしを勧請しけるゆへ耕作の神といふと村民いひ傳ふ神代系譜傳を按するに少彦名命ハ高皇産尊の御子にて大己貴命と力を勠心を一にして天下を経営の神なり淡島に至りて粟莖に縁しか

え弾渡りて常世の郷に至りましゝと云ゝさまハ當社
の祭神少彦名命に大己貴命御子六神を合せゝ八社と
を粟野の号ハ是によりて
るなりん再考をま川至し
初六月廿七日祓祭にハ神輿
をあり〻あり川舟にして延岡領上野町 當社をさる およ四里 に濱
なり数艘の船を浮へ先を争ひをの〻囃子をなし上野
町へ着船あり神楽を奏し御酒を備ふ宮帰りにハ上野
町の民家神舟に数尋の綱を付強力の綱と名付神船を
引上る自他領の老若群集して見物す又十月初午の祭
に八騎流馬なと行り社司を外山某といふ

神留山文殊院粟野寺　粟野神社の別當寺にして社の左
に行り真言宗高福寺の末なり開山快誉法印本尊正観

音開基年月詳ならに

高岳山龍福寺　内山村にあり地頭假屋の申酉方三町余
曹洞宗福昌寺の末にして開山天室鷲豚和尚 福昌寺天海和尚法嗣
本尊正観音坐像 當寺ハ慶長五年高岡か城を立に及ひ
て貫明公命しおひ創建を故に法名の龍字と福昌の福
字をもて寺号とすをといふ日隅薩三州に一寺はく公
の建てなひし三寺の其一なり

寶珠山威徳院高福寺　内山村にあり地頭仮屋より丑寅
方三町許り真言宗大乗院の末にして開山頼永法印 伊集院荘厳寺の任僧
本尊薬師如来立像古佛 慶長五年本邑外城となる

に及ひて貫明公の命によりて創建ありて長福寺といふ
後今の寺号に改む

去川 去川村にあり水源は末吉様々原中津瀬川よりして
遠く流れ末々赤江の海に注く当村に番所を建て往来
を改む川は船渡しなり

去川　　左中将源光久
御膳雲外有人家日上丹霞深水涯迢遞去川来湛々年
々流出洞中花

建福
流るゝ代ともさ川渡り志くぬひのさく浙浅くしみ
実をもるとハ

建福ハ竹村雄也とてふ人なり寛政中行脚して当に
来りしを番人本文を改めとゝめくるゝ時によみたり
しとそのかたり紀

鹿児島 錦桃
山深く実此ころやほとゝきす

梅樹山香積寺 高浜村にあり地頭仮屋より辰巳方拾三
町余曹洞宗龍福寺の末にして開山明庵和尚龍福寺二代寛永七
年庚午九月廿六日遷化本尊薬師如来坐像京都仏師作開基年月詳ならす
をはじめ小庵にて梅樹庵といひ傳ふ客殿の前に大

なる梅あり万治三年庚子二月七日泰清公此梅を遊覧
しなひし地を段弐畦八歩を賜ふて梅樹の為となさしむ
其後延宝元年癸丑五月廿二日寛陽公当寺に光臨し名を
月知梅とよひ賞詩を染筆して住僧芳傳に賜ふ今に傳
へて寺宝となる又大玄公浄国公も照覧しなひし又明和
五年六月二日前中将公照覧ありて月知梅の三字を書
して住持大賢に賜ふ 此時寺家を修復して永久の為に銀を投し給ふ 先公の染
筆と共に寺宝と次

詩係之

月知梅
香積寺前有梅大二十圍盤結如蓋不知所植
之歳蓋古代尤物也余偶過見之名以月知作

老龍盤屈歳寒枝遠出人間托佛祠移植春風今歴幾當
初唯有月明知

左中将源光久

梅樹惣高さ一丈九尺六寸餘枝の榮へ十間四方惣廻
り三十二間余柄枝八十六本初め一株の木なりしに
其枝茂て八方に根つき数株になりたり本株ハ何ほ
の歳にか枯たるにや明和年中まてハ枯朽たる株根残
りてありしに流れに朽はてさりぬ今その跡に垣
ゆひて在りしとも

河宗庵
踊雀

散るを從屋も咲り薫や月の梅

松尾山本永寺　浦之名村にあり地頭仮屋の酉方貳里余
法華宗冨士門派房州妙本寺末にして開山日朝（應安六年六月二日遷化）本尊日蓮上人（坐像）由來記を按するに當寺八日目
上人の弟子日郷上人西國表一派の開基にて建武年中
日州佐土原に下り居住せしに貞和四年房州妙本寺の
住職となりて房州にかへれる時学頭職を弟子日朝に
譲ることにをいて日朝本永寺を建立して學頭職を祢
むかへに代々の学頭職にして一派のうへ皆支配し異
見をかふる寺といふ天文二年佐土原を去りて高岡今
の法義宗派本寺の地に移る拾貳坊舎を建て寺領千五
百石の大地なりしに九世日成上人の時故ありて去川
村の川上四ヶ村に（四ヶ村ハ諸縣郡高城の内なり）隠し地をトし今の
浦之名村にきたを再建をまさ天明六年邦君尼歳の時十
八世の住僧日立公の千秋萬歳の福を日蓮に祷るよて
私銭若干をもて本尊二軀の像を彩色し東面に總門を
造立し内外のかを嚴にをといへり重寶に日蓮上人以
來代々の上人自筆の名号及ひ自筆の翰牘等數通等に
藏む

金剛寄山勝福寺妙光院善哉坊　深年村にあり修驗宗當

山派の寺にして本尊神變大菩薩坐像開基年月詳ならず
又鐘楼に寛喜三年鋳ところの古鐘を掛く門内に熊野
三所權現を安す勧請履歴傳ハらす天正六年正月貫明
公命して面高真蓮坊頼俊元和五年四月九日遷化を此寺の住職と
なし中興とす是より以来連綿して日州南院の兼職先
達職あり南院ハ穆佐院新納院をかぬ再考をへし頼
俊當寺に住もりや慶長五年伊東民部太輔家
臣清武城主稲津掃部逆乱を企てし時本庄村の士民右
馬允なるもの以下数十人善哉坊に来りて加護をこ
ふ頼俊之を許容す村民肩口の難を遁しとなりゐに
本庄村の田地四反七畦拾五歩を永世寺に寄附して其
恩を謝す右の元ハ寺に入て我像に仕
へ其恩篤を報すといふ子孫今にあり
いにしへ十八
の坊舎あまたありしに今六坊玉林坊坂本坊橋本坊西谷坊廃して本坊を合

せ十二坊小坂本坊茨谷坊中野坊杉尾坊長福坊財熊坊南学坊松本坊山本坊井上坊兼使坊存せ
いつの比よりか鹿児島般若院觸下となりぬ
法華嶽 深年村にあり地頭仮屋を距ること亥子方凡三
里拾八町嶽の中腹にあり法華嶽寺といふ曹洞宗福
昌寺の末なり初め養老二年建立ありて金峯山長喜院
と号し釈迦如来薬師如来の両像を安置す後延暦二
十四年傳教大師九州の霊地を巡礼し遂に今の地を開
き京金山法華嶽寺と名く薬師如来の尊像を稱して佐
養せり傳教此山にをいて法華十万部讀誦の志あるゆへ法華嶽寺と名くといへりむかし上
東門院の女房和泉式部上東門院ハ人皇六十六代一條院の中宮なり和泉式部ハ越前

む大江雅致女和泉守橘道貞か妻なり故に和泉式部と
称す大宰大弐藤原資高か養女とし再ひ藤原保昌に嫁す
身に重き病を蒙り式部の病ハ癩なりといひ傳へり或夜の夢に身の病
を除かんと思はゝ越後の米山参河の鳳来寺日向の法
華嶽三所の薬師に参籠をへしと清水観音より示現成
蒙りまゝ越後参河の両薬師に祈誓して丹誠を抽て祈
りけれともしるし験なし其後両寺の薬師堂に参籠して昼
夜勤行をこらしも千度もゝたひ祈りけれとも是
もまたその験しみへさりけれハ究早此世の縁なし是ま
てなるハ身を投んと思案を定め辞世に
南無薬師諸病悉除の願たてゝ身より佛の名こそ惜
しけれ
と詠しもてに合掌閉目してみたらし投もの千尋の崖
れ冥きに入らんと思へる薬師如来の扉よ
村雨ハたゝひとしきりのものそかし己か蓑笠そこに
ぬきおけ
と詠し給ふ声つある御声のうちより像に化地いさ起
よく数年の病ひ忽ち愈て瑕なき玉の容となりしとそ
詳なることハ天明八年山本正誼任僧瀧克に代りて
記せ所の法華嶽寺記に有りよてこゝに畧しぬ式部御
禮なとて旧記にあり瀧克か記にハ見へ次

法華嶽の松のむかしは萎さめてこそゆかしく
あるそ姉しれ
身を捨て菩提を祈ふ家なれハむまき故にかへりこ
抱をれ

細堂内に式部の琵琶とて一面を納む今世の琵琶に添
ちを天正九年六月二十三日貫明公福昌寺代賢和尚に
命して法華嶽ハ霊山なりといへとも住持なし（此時実峯流の省坊と見えまり）福昌流のあとなれハとよて八月十八日
代覧當山に登り開山となり僧年室をして二世の住持
とを文禄三年三月公京師に赴き給ふ路次薬師ぬ本に

詞てぬいて
旅寝ちしれ水をたのむ仏菩薩なしくおゝ法に身を
やゆうせん
ちらぬかと花に南の風もかれ

浪華
野雀

本も草も瑠璃の光や露の玉

身投嶽　法華嶽寺八町坂をのほれハ左の方に有式部身
を投んとせし所なり南ヶ嶽ともいへり

式部腰掛松　身投嶽にあり和泉式部腰掛し松といふ年
久しく経て枯たり今の松は四り三尺余にしていつの

比より好事の者ども松を植て腰掛松の古跡を伝へしと
もいふ

式部谷　二王門の右四町許り下る谷なり垢離谷ともい
へり式部薬師堂に参篭の時に日々此渓にて垢離を
かゝりし所といふ

鶯や名の法華嶽垢離ヶ谷　鹿児島　嵐六

木鶏　当寺の門前に木鶏を作りて売出す其由縁を尋ぬ
るに大同三年伝教大師御堂を今の地に遷されしと記
仁王堂かの仏像彫刻の木々のあましとて百歳の翁ども
を作り寿命を授るとて児童に与へ売るより伝はりて
今に至るといふ

愛染川　法華嶽寺卯辰方凡拾八町許りに流る瀬川なり
一之瀬ともいふ流りの上に愛染権現をあがめ伝教大
師建立の社なる和泉式部病ひ平愈の後此川に出て身
そゝぎのほとりにて側に社のありけるをいかなる神ぞと問
しに里人宿世結ひの権現といひければ一首
日向なる愛染川の色までも宿世結ぶの神を満しま
次
此寺ハ宿邦公の時山澤禅枝法華嶽寺に来詣して

るの旧記に見えたりとたしかに語りしを　親学堂
按ずるに禅枝當寺に中起しハはや四十
年あまりになると寺年月ハこれを記たり

車返　北俣村にあり児湯郡佐土原より法華嶽寺に通ふ
坂路なり和泉式部法華嶽参籠の時休息して車を返し
たる所と傳へたり坂下に阿彌陀堂ありいにしへより
此坂にて落るしみ歩行にて詣きぬれハ必しもおもき
病をうくるといふ説あり弱腰坂又小町坂ともいへり
西の方拾七八町許り南俣村に杖取坂あり式部は杖を
爰にひらせし所といへり里民是を牛之宮ともいふまゝ
も北し比郡官曽木實好佐土原に中起る時留しハ式

部の塚佐土原鹿野田村氷室山の腰にあるとひむろの
里に潮が見社あり墓表の前に湧出て海干をる井あり
東の海迄弐里餘も距て西の山手なり社の西南五町許
里に日暮の城趾あり野城にして畠となる氷室山午方
拾五町許里幸納の畠中に一宇あり地藏を安して式部
形代といふ堂の丑方三町許りに森あり式部荼毘所と
いふと里老の語りさり今鹿野田村幸納の原田勝右衛門
筒藏の式部由來記を閲に和泉式部ハ十月五日法華嶽
に参籠し明年正月十六日都にのぼりぬ後まる日向に
下りし時鹿野田村にて俄に病ひに臥し三月三日四十

三歳にて身まかりしを幸納と云所にて荼毗し桜樹を
植て志るしとし一宇を建地蔵を安置して式部のかく
志るとぞ昔はいむろのさとに葬ると云く（以上年号を志るさ）
をさきに実好の開しと符合せ是に按ずるに式部は日向
に下里て死しまりしと見へまり故に或人は和泉の里
に於見社式部塚荼毗の森なとの圖を請ひ得ておくは
附し式部の事蹟を傳ふ

和泉式部

日か言やいむろの里を詠まかうしおの煙にたも堂
へせね

行騰山壽徳院大日寺　内山村にあり地頭仮屋の寅卯方
四町許も真言宗高福寺の末にして開基年月詳ならす
中興開山頼慶法印本尊大日如来（坐像）當寺ハ一国一
寺の大日寺にて延宝四年丙辰十月勢州松平和泉守奉
納の法華一部あり寺廃に及ひし今大日堂のみ存す

穆佐

宇佐八幡宮　小山田村に鎮座地頭仮屋（同村）をさるおと
戌方拾壱町許り祭神豊前宇佐八幡に同し（例祭十一月初午日）勧
請本由詳ならすも本邑の惣鎮守なり社司を野田某と
いふ

穆佐城趾　小山田村にあり地頭仮屋の後にして高城と号を日州の三高城の其一なり（新納院高城　三俣院高城　穆佐院高城を世に日州の三高城といふ太平記に八六笠と記せ）畠山治部太輔の居城にして菊池肥後守武光八千余騎を引率し城を圍む畠山戦ひ利なくして退去せ又應永の初年義天公日州の宰となりて爰に在城しあひ世子大岳公此城にをいて誕生し給ふ今其遺趾に大なる杉樹貳株を植て邑人傳来くる座の杉といふ塚中に稲荷社あり義天公勧請し給ふよしをいひ傳ふ

龍虎山彌勒院天正寺　小山田村にあり地頭仮屋の寅方六町許に眞言宗大乘院の末にして開山快空法印（近化年月詳ならず）本尊勝軍地藏（坐像長貳尺貳寸六分行基作）應永中義天公創建の寺なりといひ傳ふ火災ある度ありて今記録傳はらず

若宮八幡宮　下倉永村（藏永村を上下にわかて里俗上倉永村下倉永村と唱ふ）に鎮座地頭仮屋より寅卯方拾五町許に本社鹿児島若宮八幡（祭九月九日十一月十五日）應永中義天公勧請しあひて大岳公生土神となへ神領三町を寄附しぬふと旧記にみへまり長禄四年庚辰九月九日大岳公再興しあひまゝ慶長二年丁酉十二月十五日松齢公再興しぬふといへり眞言宗法泉坊別当を司る

洗心山悟性寺　小山田村にあり地頭假屋の亥方八町許
り曹洞宗福昌寺の末にして開山喜冠龍慶和尚（福昌寺十六世）
本尊藥師如來（坐像長貳尺九寸あり何添他）當寺往古天台宗の伽藍な
りしに荒廢に及ひしを伊東氏穆佐を領知せるの時永
徳中竺巖長僊和尚重興して臨濟宗となせり此時掛る所
の古鐘今に存せり天正初年伊東没落して後曹洞宗喜冠
をもて勸請開山となし福昌寺の末となる

倉岡

圖師大明神　高岡花見村に鎭座（花見村ハ倉岡にまして慶長中高岡に屬せといふ）
地頭仮屋（倉岡村今俗糸原村と唱ふ）をさること未申方拾五町許

星祭神一座（素盞嗚命祭十一月中丑日）勸請來由詳ならす

常樂山醫王院郡山寺　糸原村にあり地頭仮屋の辰巳方
貳町許にあり眞言宗大乘院の末にして開山僧及ひ開基年
月詳ならす次本尊藥師如來（立像）

池王山龍泉寺　糸原村にあり地頭仮屋の子丑方拾町餘
曹洞宗高岡龍福寺の末にして開山秀翁和尚（迁化年月日傳はらす）を
本尊馬頭觀音（坐像）開基詳ならす初め天台宗の寺
ありしといへり改宗の年紀是また詳ならす次今本邑
の菩提寺とす

川口番所　倉岡の地にして去川の末流綾川の流合の所

にありこのところ船檝通融し両流の分も口なるによ
て番所を置往来の船を改め非常をいましむといふ

綾

三宮神社 南俣村[南方村を里俗南俣村と唱ふ]に鎮座地頭仮屋[北方村にあり][今俗北俣村と呼ふ]を距ること酉方七町餘祭神三座[足仲彦天皇 氣長足媛尊 誉田天皇 正祭十月十八日] 當社ハ社司宮永直記十二世の祖宮永神祇太夫實益なるもの勧請して三宮大明神と号す年月傳ハらす[実益ハ諸縣郡本庄村神馬峯八幡宮の權祝子職なりしか本庄を去て綾に移りて後三神を崇むといふ本社八幡宮ハ人皇五十三代淳和天皇天長八年豊前宇佐宮より此地に飛来りて鎮座といふ本庄村の惣廟にして社司宮永氏前當神宮寺といふ]初め同村五ヶ所といふに安

遷せしを天和元年辛酉の春故ありて今の地に遷宮し旧社地にハ小祠をあして旧宮といへり後郷の惣鎮守と次

龍智山無量壽院法音寺 南俣村にあり地頭仮屋の午方七町餘眞言宗大乗院の末にして開基の僧名傳ハらす本尊阿弥陀如来[立像] 本邑の祈願寺とす

嶽王山綾光寺 南俣村にあり地頭仮屋より午方四町餘曹洞宗福昌寺の末にして開山潭洲守龍和尚[福昌寺本三十世] 本尊薬師如来[立像] 初め天台宗の寺なりしに荒廢に及ひしを歳屋長奕和尚[近代年月詳かならす]新に再建して潭洲和尚

をして開山となし自ら二世の住持となる境内に西
観音（立像）二軀をあして雙悲閣の額を掲清凉の地なり
世に嶺崎の観音といふ

嗚呼靈地なるかや双地等も佛甲州

野雀

金峯山西光寺　南保村にあり地頭假屋を距ること戌方
弐里弐拾町余曹洞宗績光寺の末にして開基詳ならす初め
は本尊阿彌陀如来（坐像長弐尺八寸行基菩薩作　脇侍観音勢至壱尺壱寸同作）
天台宗の寺なりしに廢に及ひしを績光寺三世丹翁得
良和尚旧の寺地に再建して曹洞宗の寺となせし本尊は
阿彌陀如来の像也法華嶽の薬師の像と同しき椿樹にて
養老元年作る所といへり里俗川中嶽寺とよへり

芝原山安養院傳徳寺　南保村にあり地頭假屋の午方七
町余時衆宗友沢山清浄光寺の末にして開山覺阿上人
（遷化の年月を傳へす）本尊は阿彌陀如来（立像長弐尺六寸運慶作）開基年月詳ら
なりしに初め同村芝原といふ所にありしといひ傳ふ

望南山竹林院佛像寺　南保村にあり地頭假屋の申方拾
八町余時衆宗藤澤山清浄光寺の末にして開山誓阿上
人（遷化年月詳ならす）本尊は阿彌陀如来開基由来傳はらす

国立公文書館
National Archives of Japan

共 下

国立公文書館
National Archives of Japan